



茨城県

## 茨城県景気ウォッチャー調査

(平成16年6月調査分)

### 《景気の現状判断DI》

	平成16年3月	平成16年6月	前回調査比
茨城県	53.1	<b>50.3</b>	-2.8
県北地域	53.0	<b>48.7</b>	-4.3
県央地域	53.6	<b>52.2</b>	-1.4
鹿行地域	49.5	<b>50.9</b>	+1.4
県南地域	55.4	<b>53.9</b>	-1.5
県西地域	54.1	<b>45.5</b>	-8.6

### 《景気の先行き判断DI》

	平成16年3月	平成16年6月	前回調査比
茨城県	53.0	<b>53.5</b>	+0.5
県北地域	52.5	<b>50.0</b>	-2.5
県央地域	51.8	<b>55.8</b>	+4.0
鹿行地域	55.5	<b>50.5</b>	-5.0
県南地域	50.4	<b>56.1</b>	+5.7
県西地域	55.0	<b>54.9</b>	-0.1

平成16年7月

茨城県企画部統計課

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.htm>

## 目 次

調査の概要	2
調査結果の概要	4
1 全県の動向	4
（1）景気の現状判断D I	4
（2）景気の先行き判断D I	5
2 地域別の動向	6
（1）景気の現状判断D I	6
（2）景気の先行き判断D I	8
3 回答率	11
景気の判断理由	12
1 景気の現状判断理由	12
2 景気の先行き判断理由	18
3 その他の意見	24

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

## 2 調査の範囲

### (1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、那珂郡、久慈郡、多賀郡
県央地域	水戸市、笠間市、東茨城郡、西茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、鹿島郡、行方郡
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷郡、新治郡、筑波郡、北相馬郡
県西地域	古河市、下館市、結城市、下妻市、水海道市、岩井市、真壁郡、結城郡、猿島郡

### (2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

#### 【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	体	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等			38	39	39	37	36	189
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業等			17	16	16	18	19	86
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等			5	5	5	5	5	25
		計		60	60	60	60	60	300

## 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3)の理由
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

## 4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成16年6月調査の調査期間は平成16年6月9日から28日である。

## 5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数(DI)は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

### ※景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、景気動向指数(DI)を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

### 2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、  
 $(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5$ となる。

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

# 調査結果の概要

## 1 全県の動向

### (1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは、「良くなっている」・「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「やや悪くなっている」の回答構成比が増加したため、2.8ポイント減の50.3となった。3月調査分を下回ったものの、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

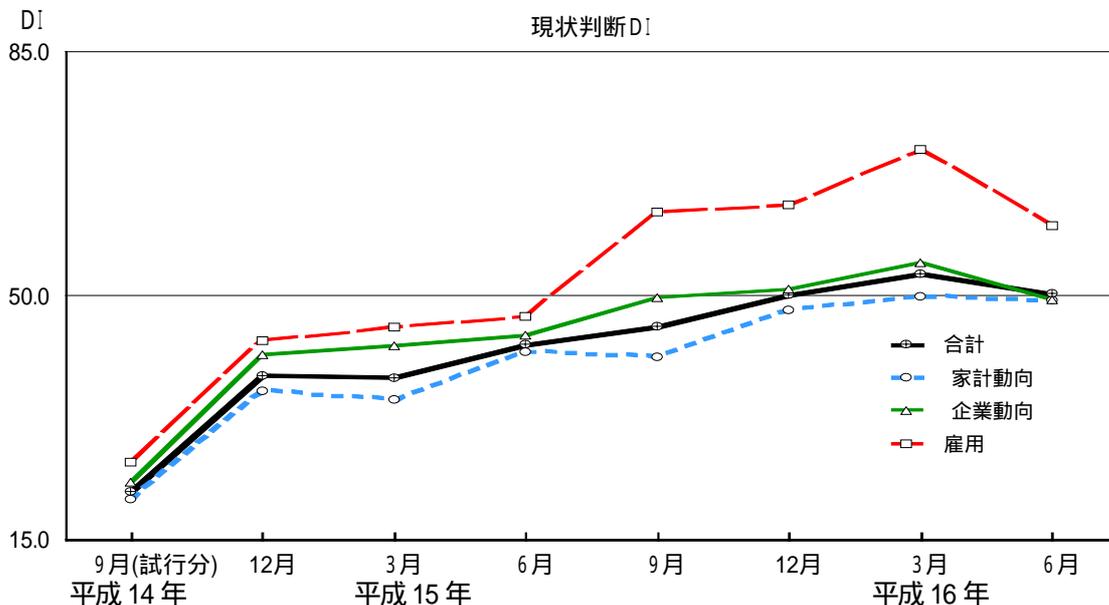
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時				
	平成15年 6月	平成15年 9月	平成15年 12月	平成16年 3月	平成16年 6月
合計	43.0	45.6	50.1	53.1	50.3
家計動向関連	41.9	41.2	47.9	49.9	49.3
小売関連	43.0	41.3	47.1	49.6	49.6
飲食関連	34.7	42.5	43.8	48.6	43.4
サービス関連	42.3	38.0	49.1	48.5	48.7
住宅関連	44.4	66.7	52.8	66.7	63.9
企業動向関連	44.3	49.7	50.9	54.7	49.4
農林水産業	53.6	50.0	34.4	37.5	34.4
製造業	45.1	49.5	56.0	58.1	49.5
非製造業	40.8	50.0	47.4	54.5	53.3
雇用関連	47.0	62.0	63.0	71.0	60.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成15年 6月	1.4%	18.6%	40.7%	29.3%	10.0%
平成15年 9月	1.8%	21.0%	45.2%	21.7%	10.3%
平成15年12月	3.8%	27.2%	41.8%	19.9%	7.3%
平成16年 3月	5.0%	29.2%	44.5%	16.0%	5.3%
平成16年 6月	2.5%	26.9%	44.1%	22.2%	4.3%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



## (2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは、「良くなっている」の回答構成比が増加し、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答構成比が減少したため、0.5ポイント増の53.5となり、引き続き横這いを表す50を上回った。

業種別にみても、雇用関連DIが3月調査分を下回ったが、家計動向関連DI及び企業動向関連DIが3月調査分を上回った。

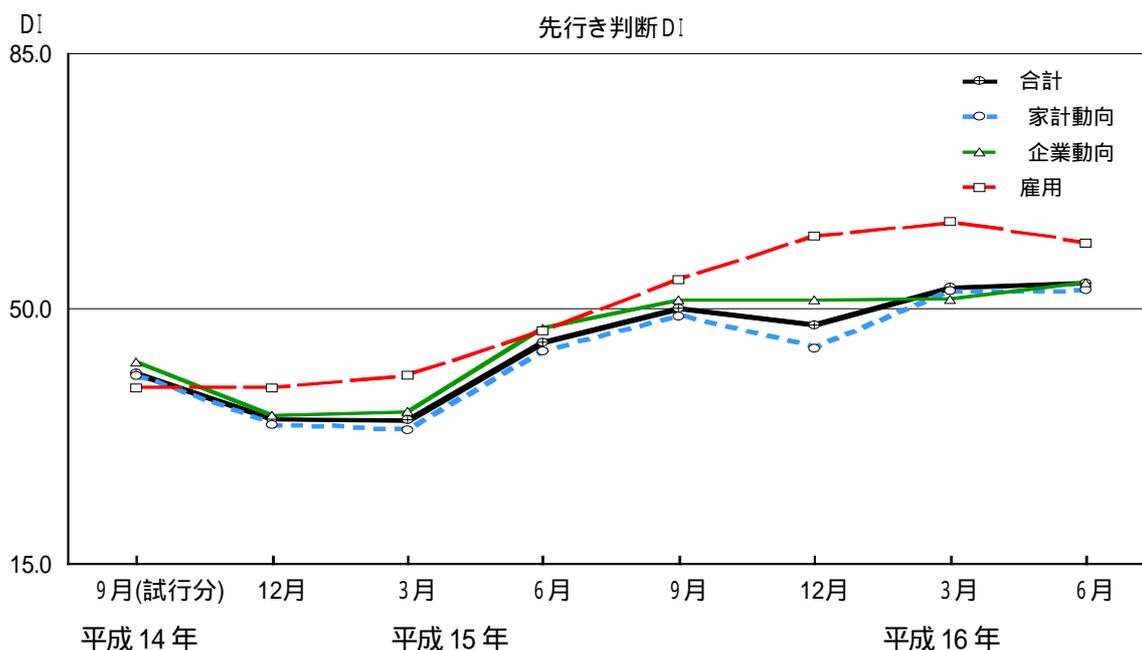
表1-3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		45.4	50.1	47.8	53.0	53.5
家計動向関連	家計動向関連	44.2	49.0	44.6	52.5	52.6
	小売関連	41.4	48.0	47.5	51.8	54.0
	飲食関連	44.4	50.0	42.5	54.2	43.4
	サービス関連	45.4	49.4	41.9	50.6	53.5
	住宅関連	52.8	50.0	50.0	72.2	55.6
企業動向関連	企業動向関連	47.3	51.2	51.2	51.3	53.6
	農林水産業	57.1	56.3	50.0	56.3	50.0
	製造業	47.3	47.8	52.7	50.0	48.9
	非製造業	45.0	55.2	49.1	51.8	61.7
雇用関連		47.0	54.0	60.0	62.0	59.0

表1-4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成15年 6月	0.4%	16.1%	54.3%	23.2%	6.0%
平成15年 9月	1.4%	28.1%	47.3%	15.7%	7.5%
平成15年 12月	2.1%	21.3%	49.1%	20.9%	6.6%
平成16年 3月	2.5%	29.2%	50.2%	14.2%	3.9%
平成16年 6月	3.2%	24.0%	59.1%	10.8%	2.9%

図1-2 景気の先行き判断DIの推移



## 2 地域別の動向

### (1) 景気の現状判断DI

#### 県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは48.7であり、3月調査分と比べて4.3ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連、雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		40.8	39.2	48.3	53.0	48.7
家計動向関連		40.1	33.3	43.9	49.3	47.8
企業動向関連		42.6	45.6	54.4	54.4	45.6
雇用関連		40.0	60.0	60.0	75.0	65.0

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	3.3%	11.7%	43.3%	28.3%	13.4%
平成15年 9月	1.7%	10.3%	46.6%	25.9%	15.5%
平成15年12月	1.7%	30.5%	40.7%	13.6%	13.5%
平成16年 3月	10.2%	18.6%	50.8%	13.6%	6.8%
平成16年 6月	1.8%	23.2%	50.0%	17.9%	7.1%

#### 県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは52.2であり、3月調査分と比べて1.4ポイント下回ったものの、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連DIが3月調査分を上回ったが、企業動向関連DI及び雇用関連DIが3月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		40.5	44.6	50.9	53.6	52.2
家計動向関連		38.6	41.7	49.3	47.9	48.6
企業動向関連		43.3	48.3	50.0	61.7	56.3
雇用関連		45.0	55.0	65.0	70.0	65.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	0.0%	14.5%	43.6%	30.9%	11.0%
平成15年 9月	1.8%	17.9%	46.4%	25.0%	8.9%
平成15年12月	1.8%	24.6%	54.4%	14.0%	5.2%
平成16年 3月	1.8%	30.4%	51.8%	12.5%	3.5%
平成16年 6月	0.0%	32.1%	46.4%	19.6%	1.8%

### 鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは50.9であり、3月調査分と比べて1.4ポイント上回り、横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連DIが3月調査分を上回ったが、雇用関連DIが3月調査分を下回った。

表2 - 5 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		41.8	41.7	46.1	49.5	50.9
家計動向関連		38.6	38.9	44.6	46.5	50.0
企業動向関連		50.0	45.3	48.4	51.8	51.8
雇用関連		40.0	50.0	50.0	65.0	55.0

表2 - 6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	1.8%	16.4%	41.8%	27.3%	12.7%
平成15年 9月	0.0%	15.8%	43.9%	31.6%	8.7%
平成15年12月	5.2%	19.0%	39.7%	27.6%	8.5%
平成16年 3月	3.6%	25.5%	47.3%	12.7%	10.9%
平成16年 6月	1.9%	27.8%	46.3%	20.4%	3.7%

### 県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは53.9であり、3月調査分と比べて1.5ポイント下回ったものの、引き続き横這いを表す50を上回った。また、DI値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、企業動向関連DIは3月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び雇用関連DIが3月調査分を下回った。

表2 - 7 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		45.5	47.7	56.1	55.4	53.9
家計動向関連		50.8	43.9	55.0	56.4	54.4
企業動向関連		33.8	47.1	50.0	45.3	50.0
雇用関連		50.0	75.0	85.0	80.0	65.0

表2 - 8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	1.8%	23.6%	36.4%	30.9%	7.3%
平成15年 9月	3.6%	25.5%	41.8%	16.4%	12.7%
平成15年12月	8.8%	33.3%	35.1%	19.3%	3.5%
平成16年 3月	5.4%	37.5%	33.9%	19.6%	3.6%
平成16年 6月	5.3%	33.3%	35.1%	24.6%	1.8%

### 県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは45.5であり、3月調査分と比べて8.6ポイント下回り、横這いを表す50を下回った。また、DI値は全県を通じて最も低かった。業種別にみても、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

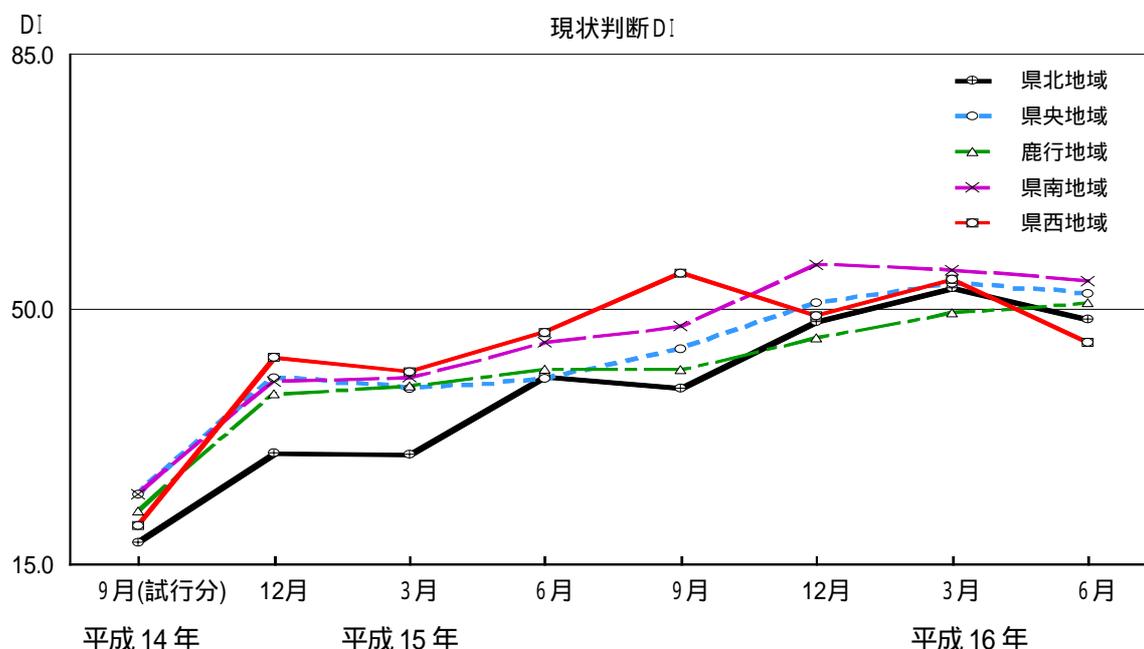
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		46.8	55.0	49.1	54.1	45.5
家計動向関連		41.9	49.2	47.0	49.2	45.3
企業動向関連		51.3	61.1	51.4	60.3	44.7
雇用関連		60.0	70.0	55.0	65.0	50.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	0.0%	27.3%	38.2%	29.1%	5.4%
平成15年 9月	1.8%	36.4%	47.3%	9.1%	5.4%
平成15年12月	1.8%	28.6%	39.3%	25.0%	5.3%
平成16年 3月	3.6%	34.5%	38.2%	21.8%	1.9%
平成16年 6月	3.6%	17.9%	42.9%	28.6%	7.1%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは、3月調査分と比べて2.5ポイント下回り、横這いを表す50となった。業種別にみても、家計動向関連DI及び雇用関連DIが3月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年	平成15年	平成15年	平成16年	平成16年
		6月	9月	12月	3月	6月
合計		42.9	44.8	43.2	52.5	50.0
家計動向関連		38.8	41.7	35.8	53.4	50.0
企業動向関連		51.5	48.5	54.4	48.5	48.5
雇用関連		45.0	55.0	60.0	60.0	55.0

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	0.0%	13.3%	53.3%	25.0%	8.4%
平成15年 9月	0.0%	25.9%	44.8%	12.1%	17.2%
平成15年12月	1.7%	16.9%	47.5%	20.3%	13.6%
平成16年 3月	5.1%	22.0%	52.5%	18.6%	1.8%
平成16年 6月	0.0%	21.4%	60.7%	14.3%	3.6%

#### 県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは55.8であり、3月調査分と比べて4.0ポイント上回り、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び企業動向関連DIが3月調査分を上回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年 6月	平成15年 9月	平成15年 12月	平成16年 3月	平成16年 6月
	合計		42.7	49.1	48.2	51.8
家計動向関連		40.7	48.6	45.3	48.6	53.6
企業動向関連		46.7	50.0	55.0	56.7	59.4
雇用関連		45.0	50.0	50.0	60.0	60.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	0.0%	12.7%	56.4%	20.0%	10.9%
平成15年 9月	1.8%	21.4%	55.4%	14.3%	7.1%
平成15年12月	0.0%	22.8%	52.6%	19.3%	5.3%
平成16年 3月	1.8%	23.2%	58.9%	12.5%	3.6%
平成16年 6月	3.6%	28.6%	57.1%	8.9%	1.8%

#### 鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは50.5であり、3月調査分と比べて5.0ポイント下回ったものの、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、家計動向関連DI及び雇用関連DIが3月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成15年 6月	平成15年 9月	平成15年 12月	平成16年 3月	平成16年 6月
	合計		45.9	51.3	49.6	55.5
家計動向関連		45.7	52.1	46.6	54.9	49.3
企業動向関連		46.7	50.0	54.7	51.8	51.8
雇用関連		45.0	50.0	55.0	70.0	55.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	0.0%	18.2%	50.9%	27.3%	3.6%
平成15年 9月	1.8%	24.6%	52.6%	19.3%	1.7%
平成15年12月	3.4%	22.4%	50.0%	17.2%	7.0%
平成16年 3月	3.6%	38.2%	41.8%	9.1%	7.3%
平成16年 6月	1.9%	22.2%	55.6%	16.7%	3.7%

### 県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは56.1であり、3月調査分と比べて5.7ポイント上回り、引き続き横這いを表す50を上回った。また、DI値は全県を通じて最も高かった。業種別にみても、家計動向関連DI及び雇用関連DIが3月調査分を上回ったが、企業動向関連DIが3月調査分を下回った。

表2-17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成15年 6月	平成15年 9月	平成15年 12月	平成16年 3月	平成16年 6月
合計	43.6	51.8	50.0	50.4	56.1
家計動向関連	45.5	50.8	49.3	50.7	58.1
企業動向関連	39.7	52.9	42.6	51.6	50.0
雇用関連	45.0	55.0	80.0	45.0	65.0

表2-18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	0.0%	9.1%	63.6%	20.0%	7.3%
平成15年 9月	1.8%	34.5%	38.2%	20.0%	5.5%
平成15年12月	5.3%	19.3%	50.9%	19.3%	5.2%
平成16年 3月	1.8%	23.2%	53.6%	17.9%	3.5%
平成16年 6月	7.0%	24.6%	56.1%	10.5%	1.8%

### 県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは54.9であり、3月調査分と比べて0.1ポイント下回ったものの、引き続き横這いを表す50を上回った。業種別にみても、企業動向関連DIが3月調査分を上回ったが、家計動向関連DI及び雇用関連DIが3月調査分を下回った。

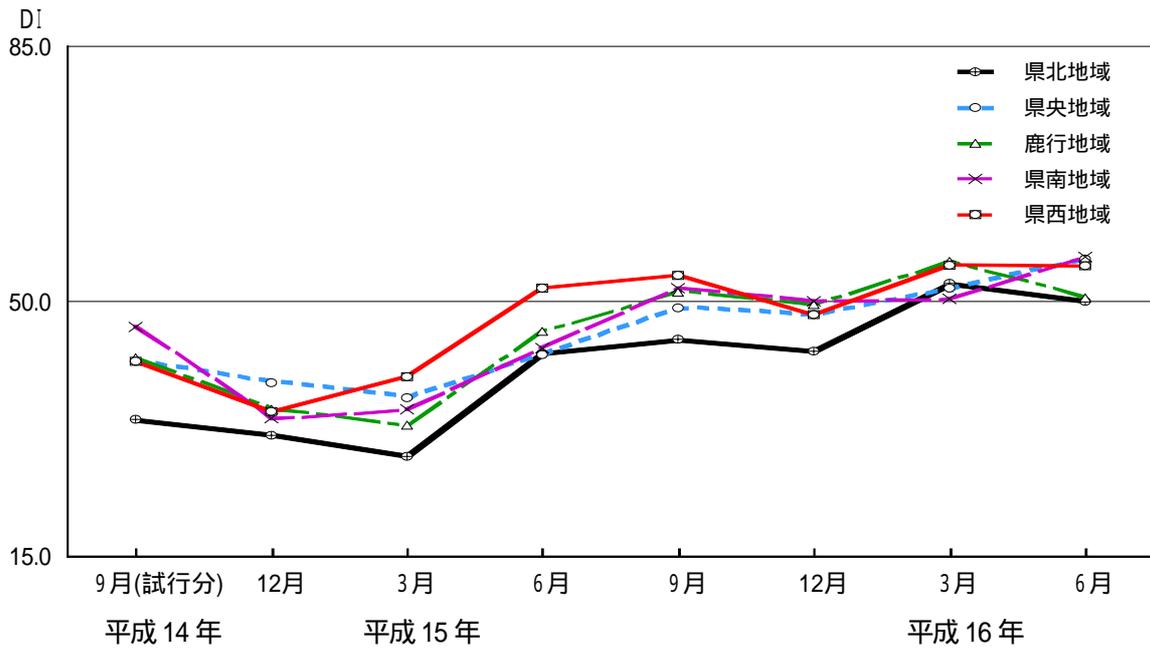
表2-19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成15年 6月	平成15年 9月	平成15年 12月	平成16年 3月	平成16年 6月
合計	51.8	53.6	48.2	55.0	54.9
家計動向関連	51.6	52.3	46.1	55.3	52.3
企業動向関連	51.3	54.2	50.0	48.5	57.9
雇用関連	55.0	60.0	55.0	75.0	60.0

表2-20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成15年 6月	1.8%	27.3%	47.3%	23.6%	0.0%
平成15年 9月	1.8%	34.5%	45.5%	12.7%	5.5%
平成15年12月	0.0%	25.5%	43.6%	29.1%	1.8%
平成16年 3月	0.0%	40.0%	43.6%	12.7%	3.7%
平成16年 6月	3.6%	23.2%	66.1%	3.6%	3.6%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



### 3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	279 人	93.0%
県北地域	60 人	56 人	93.3%
県央地域	60 人	56 人	93.3%
鹿行地域	60 人	54 人	90.0%
県南地域	60 人	57 人	95.0%
県西地域	60 人	56 人	93.3%

# 景気の判断理由

## 1 景気の現状判断理由

### (1) 県北地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	雇用関連	人材派遣業	受注が増加している。既存のみでなく新規の注文も増加している。	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	客単価が上昇しており、特に食品では良質商品に動きが見られる。また、3月頃は消費税の総額表示により売上げが減少したが、一段落してきたように感じられる。しかしながら、消費税分をそのまま上乗せした総額表示ができないため、相対的にスーパーは価格が低下しているようである。	
		スーパー	今期夏のボーナスが増えたという客が多い。また、消費税の総額表示開始で一時的に低下していた1人あたりの買上点数も徐々に上向いている。	
		家電販売店	高額商品の成約が多く見受けられる。ボーナス商戦だけのことなのかもしれないが、アテネ需要もあるのではないと思われる。	
		食堂	近所にパチンコ店が開店し、高齢者等のパチンコファンが多く見られるようになった。	
		レジャー施設	団体客が増加しており、客単価も若干上昇している。	
		住宅販売会社	受注量が増加している。	
	企業関連	製造業(一般機械器具)	作業量、給与ともに増加している。	
		製造業(電気機械器具)	製造業でも業種によって受注活動に差が生じているが、全体的には良い傾向になっていると感じられる。	
		製造業(電気機械器具)	デジカメ・携帯電話等関連企業は忙しくなってきたようである。	
		非製造業(不動産業)	実績として成約に至らなくとも、以前より販売会やイベントへの集客力が改善傾向にある。	
雇用関連	雇用相談員	求人が増加傾向が見られる。		
変わらない	家計関連	商店街代表者	来街者数が減少したままで回復していない。	
		コンビニエンスストア	売上げの減少は止まったように思われるが、回復しているとは言えない。	
		自動車販売店	販売台数が前年と同水準であり、まだまだ良くなっているとは言えない。	
		農産物直売所	販売高が横這いである。	
		小売業(靴製品)	客の買物行動に変化がない。	
		レストラン	5月は連休が多く、人が市内から郊外に出て行ってしまった。国道にあるレストランには客が満杯に入っていた。	
		居酒屋	客から景気が良くなったという声が聞かれない。	
		スナック	40代・50代の客が減少している。また、自営業の景気が悪いようである。	
		観光型ホテル	売上げ、来客数ともに変化がない。	
		観光型ホテル	各企業の決算期にあたり団体・個人客とも伸びが見られなかった。顧客のニーズが多様化する中でどの客層を取込むか、そしてどう魅力のある商品を提供できるかがカギとなったが、各種団体の会合などを取込み、昨年同月並で推移している。	
		タクシー運転手	ボーナス時期で一時的に利用客が増加しているが、深夜の利用客は相変わらず少ない。	
		タクシー運転手	ボーナス月で飲食店等からの受注回数が増加すると思われたが、さほど動きが見られなかった。	
		ドライブイン	ゴールデンウィークも過ぎ、昨年と比較しても大差は見られない。	
		ゲームセンター	客の商品の選別が厳しくなっているように感じられる。	
		レジャー施設	団体客が多少増加したが、客単価が減少しており、全体としては変化がない。	
		理・美容店	周囲にはサラリーマンが多く企業の景気に左右されやすいが、最近は平均的に安定していると感じられる。	
		企業関連	製造業(食品)	売上げは回復基調にあるが、各業界で供給過剰が見られ、デフレも手強い販売価格の下落傾向が続いている。
			製造業(電気機械器具)	受注量、作業量とも3か月前と同程度で推移しており、大きな変化は見られない。
			製造業(電気機械器具)	好調を維持している分野とそうでない分野があり、全体の業績としては平行線である。
			製造業(輸送用機械器具)	作業量に大きな変化がない。
製造業(電気機械器具)	前年度下半期は好調であったが、現在も同レベルで推移している。			
非製造業(金融業)	一部の製造業においては受注の増加が見られるものの、安定的増加傾向とは考えにくく、総体的には目立った変化は感じられない。			
雇用関連	学校就業関係者	職業安定所に求人を出す企業数に変化が見られない。		
	求人広告	雇用に関しては目立った動きが見られない。		
	公共職業安定所	就職件数は微増傾向にあり、雇用保険の被保険者数も減少傾向にあるが、新規求人倍率、有効求人倍率がともに微減している。		
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	客数はそれほど減少していないが、買上点数が減少しており、また単価の安い商品しか購入しないため、客単価がかなり低下している。	
		衣料品専門店	売出広告やDMを出しても、一時的な売上げしか得られない。	
		小売業(酒類)	5月の大型連休後、繁盛していた得意先の飲食店でさえ来客数が減少している。	
		観光型ホテル	消費単価が低下している。	
		旅行代理店	グループ及び団体旅行の減少が続いている。また、日帰りで旅行をする傾向にある。	
タクシー運転手	平日は病院、買物、会社関係の利用があるが、土・日・祝日になると仕事が減少し、待機する時間が長くなっている。また、飲食店の客が少ないため、夜の仕事が減少している。			

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計関連	クリーニング店	売上げが減少している。
		企業関連	林業関係者 原木価格が弱含み傾向にある。
	企業関連	非製造業（建設業）	優勝劣敗が明確になってきている。工事物件が著しく減少しているなか、設備投資を行い積極的に事業を展開している企業も見受けられる。
非製造業（情報処理サービス）		仕事量が多い年度末時期に比べ、予算が不安定なこの時期は仕事量が少ない。	
悪くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	客単価が低下している。
		ガソリンスタンド	営業を閉鎖する店が散見される。
	企業関連	水産業関係者	茨城の水産界はまったくの不漁が続き、また著しい魚価安となり、生産部門の漁業者と加工部門等では例のない不景気となっている。
		製造業（電気機械器具）	電力等大型設備投資関連の受注の減少が止まらない。小型設備投資の受注は増加しているが、総体としては悪い。

(2) 県央地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	消費税総額表示に慣れてきたように思われる。ただし、油断はできない。	
		農産物直売所	ここ3か月前年割れがない。また、4月の税込み表示もスムーズに行うことができた。	
		都市型ホテル	国内・外ともに企業利用が増加している。	
		観光型ホテル	ゴールデンウィークは家族連れが多く前年を上回った。また、最近では団体客や会議（総会他）を兼ねた宿泊が増加している。	
		旅行代理店	個人の旅行がやや回復してきたように思われる。	
		ドライブイン	予約状況・売上げともに少し伸びているように思われる。	
		観光名所	時期による増減はあるが入出、売上げともに前年同時期の実績を上回っている。	
		レジャー施設	新規利用の申込み、大型への買い換え、免許取得などの相談が増加している。	
		企業関連	製造業（金属製品）	受注が少しずつ増加している。
	製造業（一般機械器具）		売上実績としては反映されていないが、見積書提出などの件数や、商品の機能に関する問合せなど、3か月前とは比較にならないくらい引合いがある。	
	非製造業（建設業）		不動産投資が活発になっているように思われる。不動産取得（出店）の相談が増加してきている。	
	非製造業（金融業）		勤労者の住宅ローンについての相談件数・申込件数が増加している。事業者の設備資金についての相談件数も増加している。	
	非製造業（広告代理業）		積極的に販売促進活動を実施する傾向にある。クオリティの高さが要求されるものは広告代理店に発注する一方で、簡易なものや少ロットのものは自前の簡易印刷ですませることが多く、仕事内容による業者選別がはっきりしてきている。	
	非製造業（情報処理サービス）		市場における商談が活性化している。	
	雇用関連		人材派遣業	企業からの求人数が増加している。
	雇用相談員	物流関係では仕事の切れ目が少なくなっている。総体的に製造業の受注量が増加しているようである。		
	公共職業安定所	管内4月の事業所業況調査では前回調査を上回っている。また、求職申込件数は前年同月比で減少、求人数は9か月連続で前年同月を上回っている。		
	変わらない	家計関連	商店街代表者	売上げ・来客数とも前年並みであり、大きな変化は見られない。5月の大型連休は例年と比較して休みが多かった分、売上げは減少した。
			スーパー	客数・売上げともに横這い傾向にある。
家電販売店			予算と相談しながら慎重に商品を選択する客が多く見られる。	
自動車販売店			モデルチェンジの効果はあったが、全体的に動きは悪い。	
スーパー			客数は前年をクリアしているが、平均単価及び買上げ点数は伸び悩んでいる。	
レストラン			ゴールデンウィーク以降の動きを見ても、大きな変化は見られない。	
レストラン			ガソリン等の値上げで、消費者は依然厳しい状況にある。また、景気が回復しているとは聞くものの、レストラン業では実感が無い。	
都市型ホテル			総会などの会合で会員数の減少や景気の話聞く限りでは、まだまだ悪い状態が続いていると思われる。	
タクシー運転手			客からリストラや出向が依然多い（特に40代）との話がよく聞かれる。売上げには変化がない。	
タクシー運転手			昼夜ともに売上げに変化がない。	
パチンコ店			消費税総額表示やその後の政府の方針に対する客の反応は特に見受けられない。客の消費行動にも変化が感じられない。	
レジャー施設			物販を利用する利用者客単価は上昇したものの、利用率は減少している。	
住宅販売会社			自営業者、会社員、公務員等様々な客と住宅資金について打合わせをするが、所得が減少している客がほとんどである。	
建築設計事務所			官公庁工事の新年度の発注時期ではあるが、合併等の影響もあり今年度は減少すると思われる。また、金利の上昇で、飛び込みの住宅建築件数が増加しているとの話が聞かれる。	
企業関連			製造業（食品）	売上げが伸びるでもなく極端に下がるでもなく、変わりなく時が過ぎている。客の購買力にもあまり変化が見られない。
			製造業（出版・印刷業）	官公需のウェイトが比較的大きい企業は2月～6月頃まで年度末及び年度始に関わる印刷物が増えるため受注量は増加する。3月頃と比べると変化はそれほどない。
			製造業（出版・印刷業）	3か月前は年度末であったため多少忙しかったが、それを除けば横這いである。
	非製造業（不動産業）	3か月前と比べると悪くなっているが、例年同様の動きである。		

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業関連	非製造業（コンサルタント業）	これといった景気を左右する変化が見られない。
		雇用関連	求人広告
		学校就業担当者	学生の就職状況に良くなっている様子が見られず、中途の求人も増加しているわけではない。
やや悪くなっている	家計関連	商店街代表者	景気は上向きとの報道があるが、イラク問題や年金問題等々により依然財布のヒモは固く、消費は冷込んでおり、今後の人口減を考えると小売業は厳しい状況にある。
		百貨店、総合スーパー	客数が減少している。7月のセールを待っているように感じられる。また、まとめ買いはあまり見られず、必要な物しか購入しない傾向がさらに強まっている。
		スーパー	買いまわり（安いところで買う）により客単価が低下している。
		専門スーパー	4月1日からの消費税の総額表示に対し、値上げされたと感じている客が多いように思われる。
		タクシー運転手	乗車回数が増えつつ減少傾向にある。
		ゴルフ場	来場者数が減少しており、客単価も低下している。
	企業関連	理・美容店	近隣の衣料品店やデパートが閉店したため、人通りが大幅に減少しており、買物ついでに客が減少してきている。
		理・美容店	今までは主に借店舗で営業している店が閉店していたが、最近では古くから営業している店でも閉店するところが出てきている。
		製造業（食品）	ガソリン等の値上げに表れているように原油高の影響が見られる。特に包装資材費の値上げ要請が頻繁になり、製品価格に転嫁できず困っている。
		非製造業（輸送業）	ロット物の貨物の動きが悪くなっている。
悪くなっている	家計関連	タクシー運転手	3か月前と比べて営業収入が約1割減少しており、売上げを確保するため時間を延長している状況である。

### （3） 鹿行地域

（-：回答が存在しない。：主だった回答等が存在しない。）

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	スーパー	売上げ・客数とも伸びている。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	工業地帯、特に鉄鋼産業が繁忙で、昼の人口が増え、人の回帰ができています。これに伴って、売上げが若干改善されている。
		スーパー	近隣の競合店より価格面で勝っており、客が途切れることなく入店している。
		スナック	客数が増加しており、ボトルも比較的に入っている。企業の景気が幾分良くなったようである。
		タクシー運転手	あやめ祭りがあり利用客が増加した。
		クリーニング店	一時的なことではあるが、季節が変わって冬物が始まった。
		サービス業	依然として単価は低いが、件数的には増加の兆しがある。
		住宅販売会社	イベントの申込みや折衝の内容が良くなっているように思われる。
		住宅販売会社	ローン控除が来年から縮小することによる一時的なものにも感じられるが、住宅購入を計画する人が増加している。
		ドライブイン	祭りの季節であり、個人客・団体客ともに多かった。中高年層の客が多く、メロンや佃煮など高価なお土産が多く売れている。
		企業関連	製造業（化学工業）
		製造業（窯業・土石製品）	株値の回復とリストラ効果等による影響が大きく、大手企業は各産業とも決算状況が好調であり、景気改善の兆しを感じられる。しかしながら中小企業にとっては、製品価格の競合等まだまだ厳しい状況にある。
		製造業（食品）	多少株値が持ち直しており、また気分的にもやや良くなっていると感じられる。
	雇用関連	人材派遣業	季節要因を勘案しても、引合件数が多少増加している。
		民間職業紹介業	企業からの求人依頼が増加傾向にある（特に電子部品製造業）。
変わらない	家計関連	商店街代表者	農作物の価格の低迷により、資材を買い控える傾向が見られる。
		商店街代表者	新聞紙上等では景気が回復しているとのことであるが、地元ではまだ回復が感じられない。
		農産物直売所	売上金額に変化がない。
		スーパー	特売商品や見切り商品を求める客が増加しており、定番価格品の動きが良くない。
		書店	商工会の集まりで小売店は前年の売上げを割っているという話が聞かれる。大手及び電気関係が中国への輸出で好景気になってきていると聞かれるが、小売店に反映するまでにはいたっていない。
		観光型ホテル	利用状況や予約状況から判断すると、変化が見られない。
		タクシー運転手	売上げに変化がない。まわりの状況も変わらない。
		タクシー運転手	買物客の利用は減少しているが、人々の動きは良くなっているように思われる。
		観光名所職員	客は割引券を渡すと利用するが、通常の価格では渋ってしまう。必要最小限のお金の使い方をしていると感じられる。
		洋食食堂	新メニューの導入が遅れている。客数・客単価もいまひとつ伸びない。
		室内装飾業	仕事の量が増えるわけでもなく、底でうろついている。
		企業関連	農業関係者
		水産業関係者	建設関係の業者から、役所関係の仕事の受注がまったくないと話が聞かれる。
		製造業（電気機械器具）	特別景気が良くなったという話は聞かれない。
		製造業（飼料製造）	生産調整が続いており、売上高は落込んだまま回復していないが、最終製品の販売価格には若干の上昇が見られるようになった。

回答区分	分野	業種・職種	理由	
変わらない	企業関連	非製造業（住宅設備施工業）	3か月前と仕事の量が変わらない。	
		非製造業（輸送業）	4月～5月は動きが良かったが、6月に入り貨物の動きが思ったように伸びていない。	
		非製造業（金融業）	個人消費が低迷したままである。また、消費税の総額表示に伴う価格競争の結果、実質5%の値下げとなっている。	
		非製造業（不動産業）	時々来社する客との会話やユーザーの話、電話等による情報では、取引は年に数件あれば良いと口にする人が多く、また毎月仕事がある人は少ないようであり、景気は3か月前とまったく変わっていない。	
	雇用関連	公共職業安定所	求人増加がこのところ小幅になっている。また、求職者が減少していない。	
やや悪くなっている	家計関連	小売業（金物店）	店頭販売額が減少傾向にある。建設業も年度が変わり工事が少なく、消費者も大型店志向にあると思われる。	
		小売業（酒類）	最近客も慣れてきたようであるが、消費税の総額表示で値上げ感があり、買い控えが見られ売上げ的に厳しい状況であった。	
		自動車販売店	依然として毎月の市場は減少傾向にあり、特に4月・5月での対前年比の落込みが大きく、ユーザーからも厳しいとの声が聞かれる。	
		専門スーパー	自営業者は以前と変わらないが、社会保険料を払っているサラリーマンの消費が減少してきている。	
		観光型ホテル	宿泊及び日帰りの利用者数が減少している。	
		小売業（菓子販売店）	客単価が下落傾向にある。	
		パチンコ店	客数が減少しており、客単価も低下している。新規店舗が増加したこともあるが、個人の利用金額が低下していることも一因であると思われる。	
		クリーニング店	中年の人は仕事をリストラされたり労働時間をカットされたりしている。近隣の工場では中国人がたくさん働いている一方で、日本人はリストラされている。また、地元のゴルフ場が2か所倒産したが、そのしわ寄せが出ている。	
		企業関連	製造業（化学工業）	販売量・価格とも横這いであるが、原油価格の高騰による原材料価格の上昇で減益傾向にある。
	非製造業（保険業）		カーテン製造業で残業がなくなり、給料が減少している。飲食店の客が減少し、金融機関の貸付も厳しくなっている。	
	雇用関連	学校就業関係者	鉄鋼材料やガスの価格がかなり上昇しており、なかなか購入できないようである。また、定職に就けていない中高年が増加しているようである。	
	悪くなっている	家計関連	ゴルフ場	来場者数・売上げともに前年比で大幅に減少している。
			日本料理店	4月に入り食用油等が値上がりしている。

(4) 県南地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	家電販売店	冷夏だった昨年とは、気温・気候が異なっている。
	雇用関連	求人広告	求人広告の量が増加傾向にある。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	売上げが多少上向いている。
		スーパー	買上げ点数が増加しており、高額な食材も動いているので、売上げが前年比3%増で毎月推移している。
		スーパー	客数はあまり伸びていないが買上点数は増加している。一方で、税込表示になったが売価は以前と変わっていないので収益は低下している。
		スーパー	消費税の総額表示の影響もさほどなく、客数・客単価とも上昇している。
		スーパー	天候に比較的恵まれた部分はあったが、一時のような買い控えは見られなくなった。消費税総額表示による消費の落込みもセールによってあまり感じなかった。また、テレビで話題の商品、ちょっとしたこだわりの品などが予想以上に売れており、消費マインドが上向いているように感じられる。
		コンビニエンスストア	気温が平年に比べ高かったため、ソフトドリンクやアイスクリームなどが売れている。
		小売業（各種食料品）	客数、客単価、買上点数が多少増加している。
		都市型ホテル	個人消費も安定し多少上向きになっている。また企業でも接待需要等が回復し始めている。
		旅行代理店	来店者数、旅行申込件数（取扱金額）が増加している。高額コースの申込が増加している。
		ゴルフ場	ゴルフ場来場者の内容に変化が出てきている。土・日・祭日の接待と思われる来場者が増加している。
		ゴルフ場	来場者が増加しているわけではないが、会員権の相場が少しずつ値上がりしている。
		理・美容店	独自のセールスポイントをしっかりと研究し、行動することで実績を上げ始めている。
		企業関連	企業関連
製造業（食品）	3月の節は購買欲が上がらない月であり、その頃と比べれば客の出が少し増加している。		
製造業（窯業・土石製品）	株価の安定や失業率の低下、倒産件数の大幅な減少と、身近に暗い話題が聞かれなくなった。		
雇用関連	雇用関連	依然として小規模の工事ではあるものの、見積りの依頼が増加している。	
変わらない	家計関連	公共職業安定所	窓口に来所する求人事業主が増加している。
		専門スーパー	客は必要な物は購入するが、衝動買いはしない。
		旅行代理店	少しずつ動きが見られるものの、この夏の天候次第でどうなるかわからない。
		タクシー運転手	3月・4月より売上げはやや増加したが、前年同月比では変わらない。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	タクシー運転手	深夜の電話受付の回数が相変わらず少ない(特に午前0時以降)。
		タクシー運転手	売上げ・乗車回数とも横這いである。
		パチンコ店	全体的に人の動きに変化がまったく感じられない。
		レジャー施設	弁当や飲み物をコンビニ等で買ってくる来園者がまだまだ多く見られる。
	企業関連	住宅販売会社	展示場に来場する客の話を聞いても、家は欲しいがもう少し考えたいとの意見が多く、ここ数か月で変化は特に感じられない。
		農業関係者	田園地帯であり、新たな開発も特にない。
		製造業(食品)	売上げ・客数ともそれほど変化がなく、低水準で推移している。
		製造業(食品)	売上げが好調な商品もあれば、芳しくない商品もあり、プラスマイナスゼロである。
		非製造業(建設業)	先行きが不透明であり消費が伸びないと思われる。
		非製造業(建設業)	去年の今頃と変わらない。
		非製造業(輸送業)	倉庫の荷物類の動きに変化は見られないが、特定の荷物に集中する傾向が見られる。
	雇用関連	非製造業(不動産業)	下げ止まり傾向と需給のバランスがとれてきた。ただ、一部の地域では条件・相場にかかわらず引合いがないところもあり、二極化の傾向にある。
		非製造業(金融業)	不動産業、建設業に良化傾向が見られず、飲食関連についても全体的な売上増加傾向が見られない。
		人材派遣業	新規で受けた注文も一巡し、減少することはないが、更に増加する要因もない。
やや悪くなっている	家計関連	雇用相談員	3月期に比べ、業種全体を見て、一部の輸出企業を除き横這い状態が続いている。土木関係は公共事業の減少等により民需で現状を維持しており、建設関係では特に個人住宅建築の低迷が続く、建材等の販売業種でも売上げの減少が続いている。
		学校就業関係者	来訪者の表情や態度には落ち着きを感じられるが、離転職者向け講座はすぐに定員一杯になり、かなり遠方からの申込みも見られる。
		自動車販売店	新車・中古車を見に来店する客が減少している。また、客との話の中でボーナス等の話が出てこない。
		農産物直売所	5月以後の前年比伸長率が低下している。客数は増加しているものの、客単価が前年を下回っている。
		ガソリンスタンド	イラク問題があり湾岸戦争時よりも原油価格が高騰しているが、デフレの現状下で販売価格には転嫁できないため経営が厳しい。
		洋食食堂	多種多様な飲食店が低価格でオープンしているため、流れがそちらに行ってしまう。近隣の雰囲気の良い和食店も閉店し、客単価の高い高級志向の店ほど経営が厳しいようである。当店においてもパーティーの予約が減少している。
		寿司店	客単価が低下している。
		和食食堂	当社、自店に限らず、全体的に前年と比べて悪いと思われる。近隣の飲食店を見ても良いとは思われない。
		都市型ホテル	宿泊については横這いの状態であるが、婚礼や宴会等の人数が減少しており、売上げが低下している。
		タクシー運転手	1日あたりの営業回数が増加しない。
	タクシー運転手	1日あたりの営業回数、売上げが減少傾向にあり、待機する時間が長くなった。	
	ゲームセンター	ショッピングセンター全体では特に販売が落込んでいる。集客自体は下がっていないが、客単価が下落し、買い控え傾向が見られる。	
	企業関連	製造業(食品)	大手デパートの売上げ減少に伴い、テナントが影響を受けている。
		製造業(一般印刷業)	年度の切り替わりから2か月が過ぎ、一服していると思われる。
製造業(コンクリート製造業)		製品価格の下落が止まらない。	
製造業(金属製品)		創業当時より部品を専門に製造しているが、組立部品が海外で生産される時代となり苦労している。	
悪くなっている	企業関連	製造業(食品)	周りの状況は良いようだが、当社に限っては5月の連休明けから急激に売上げが減少しており、原因もわからないため回復の見通しが見つからない状況である。

(5) 県西地域

(- : 回答が存在しない。 : まだった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	企業関連	製造業(化学工業)	受注の進度が良い。在庫調整が終わっている可能性がある。
		非製造業(不動産業)	不動産売買の来客数、契約数がともに増加している。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	客数が10%程度増加した。
		都市型ホテル	昨年より動きが良くなってきている。また、製造業を中心に受注が増加しているとの声が聞かれる。
		旅行代理店	予約状況、問合せ等客の動きが良いように感じられる。
		ドライブイン	暦に恵まれた面はあるが、ゴールデンウィーク期間の売上げが昨年を上回った。
		ゴルフ場	シーズンを迎え、来場者数は前年比でわずかながら増加している。大・小コンペも動き始め、オープンコンペの反応も良好である。
		クリーニング店	4月は冬物が出て売上げが上昇した。5月～6月は4月ほどではないがやや良い状況は続いている。
		建築設計事務所	建設に関する問合せが増加している。
	企業関連	製造業(電気機械器具)	受注状況から見て、やや上向きとなってきた企業が目立つ。
雇用関連	公共職業安定所	ほぼ全業種にわたり昨年に比べ求人が増加傾向にある。しかしながら、業務請負型のアウトソーシング関係が多くなってきており、求職者にとっては必ずしも良い状況とは言えない。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや良くなっている 変わらない	雇用関連	学校就業関係者	金型（プレス金型，プラスチック金型）業界での受注増により社員募集が多く出ている。
		家計関連	スーパー
	スーパー		製造業は良くなっているという声が聞かれるが，小売業はデフレによる価格ダウンや店舗数の増加などで1店舗あたりの売上げが伸びていない。客は上手に店を使い分け「生活防衛」をしている。
	家電販売店		景気は良くなるまたは良くなっている等の予測を耳にするが，まだまだ価格等での商品選びが多く，厳しい状況に変わりにない。
	自動車販売店		売上げが伸びず，相変わらず財布のヒモは固い。必要な物しか購入せず，不良箇所の修理のみで，他のアドバイスにも渋る様子が見られる。
	専門スーパー		消費税総額表示で，一般消費者には割安感が出るものが増えてきた。売る側にはより一層の企業努力が必要であると感じられる。
	ガソリンスタンド		石油製品の値上がりにより数量的には前年を割るようになってきているが，特に倒産の情報等は聞かれない。
	洋食食堂		好景気の予兆はあったが，次のステップに進まない。また，休日は好調であるものの平日は変わらない。
	和食食堂		ここ3か月の売上げが，外食産業全体で対前年比94%前後で推移している。
	都市型ホテル		客数は少しずつ増加しているが，客単価は低下傾向にある。
	タクシー運転手		例年だと3月後半から4月前半に送別会，歓迎会等があり仕事が多少増えるのだが，今年はあまり変わりがなく，6月に入ってもほとんど同じ状態である。
	ドライブイン		旅行はするがお金は出さないようである。家族も少人数であり，お土産も平均的に少なく，単価が低い状態である。
	理・美容店		仕事柄暑くなると客の回転が良くなる傾向にあるが，その割に客足が伸びない。アウトサイダーの店舗が増加しているため，そちらに客が流れているように思われる。
	住宅販売会社		客の反応に変化が見られない。
	企業関連	製造業（食品）	大手の一部企業については景気の回復等が報じられているが，末端の中小等においては依然デフレの影響を受けており，原材料高・製品安の状況が続いていると思われる。
		製造業（印刷業）	一流企業の好景気が報じられているが，地元には一部企業（自動車関連）を除いてまだ波及していない。また，商店等小売業が店を閉めたり，家内工業が辞めたりと格差がより一層鮮明になってきている。印刷業界も設備投資ができる会社とできない会社で生き残りが鮮明になってきている。
		製造業（印刷業）	印刷業での取引価格が下落したままであり，採算を無視した取引が行われている。
		非製造業（建設業）	テレビやマスコミなどで景気は良くなっているとの見方があるが，身の回りの景気には変化が感じられない。
		非製造業（金融業）	売上げ等に変化が見られない。
		非製造業（コンサルタント業）	忙しさは出てきたが，実が伴っていないような気がする。
雇用関連	求人開拓員	仕事があっても工賃が横這い，あるいは低下しつつある状況であるため，景気が良くなっているとは思われない。	
やや悪くなっている	家計関連	衣料品専門店	売上げは平行線であるが，店舗の顧客情報から，お金がなく物を購入する気分にならない等の消費動向の低迷が読み取れる。
		寿司店	売上げが減少している。ランチの客が1日平均で10食くらい少ない状況である。
		一般食堂	夜の客ばかりでなく，昼の客も減少している。
		タクシー運転手	個人の売上げ，会社全体の平均売上げがともに減少している。
		タクシー運転手	日々の乗車回数が減少している。買物等での地元の利用客，ビジネスで来たと思われる客ともに減少しているように思われる。
		ゴルフ場	前年比でやや悪くなっている。
		ゲームセンター	ショッピングセンターの店舗では売上げが前年を下回っている。また，ショッピングセンターでは衣料関係の売上げが特に良くない状況にある。
		パチンコ店	夜（仕事帰り）に来店する客が減少している。
	理・美容店	客から景気がさらに悪くなっているという話がよく聞かれる。	
	企業関連	製造業（食品）	製造数量が伸び悩むなか，業者からダンボールや包装材の値上げなどの申し出が続いており，月次決算の数字も思うように好転しない。
		製造業（石材業）	墓石製造業は3月・9月の彼岸が山で6月は手薄時期である。
		製造業（金属製品）	受注量が減少している。
		製造業（一般機械工業）	3か月前は年度末による受注があったが，その後売上げゼロの会社が何社もある。
		非製造業（広告業）	3月～5月は業界的に一番忙しい時期ということもあり，ゴールデンウィーク以降は一段落しているように感じられる。
雇用関連		人材派遣業	業種にもよると思われるが，求人がまったくない。
悪くなっている	家計関連	農産物直売所	いろいろ努力しているが，客数，購買単価ともに上昇していない。
		タクシー運転手	3月は年度末で慌ただしかったが，最近では客の動きが落ち着いているように見受けられる。
	企業関連	農産物関係者	天候不良により農産物の出荷量及び価格が低下している。
		製造業（石材業）	得意先であるほとんどの同業者から仕事がないとの声が聞かれる。当社も創業以来最悪の状態であった。

## 2 景気の先行き判断理由

### (1) 県北地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	-	-	-	
やや良くなっている	家計関連	コンビニエンスストア	昨年の冷夏に対して今年は暑くなりそうである。また、周辺事業所のボーナスが回復している。	
		スーパー	夏のボーナスが増加したという話がよく聞かれ、業績が向上している企業が多いことから、支出が多少増加すると思われる。	
		タクシー運転手	オリンピックが開催されるため、期待が持てる。	
		ゴルフ場	客との会話の中でもこの先良くなるとの声が多く聞かれる。期待混じりであるとは思いますが、こういった思いが景気全体の回復には大事であると思われる。	
		レジャー施設	猛暑の長期予想により、夜間の夕涼み客の増加が見込まれる。	
		レジャー施設	昨年の冷夏とは異なり、今年の夏は暑くなると予想されるため、来園者数の増加が見込まれる。	
	企業関連	製造業(一般機械器具)	作業量が増加すると思われる。	
		製造業(電気機械器具)	最近新規の業者から作業依頼の商談が4~5件入ってきている。また、大手企業にボーナスが支給され、購買意欲が増すと思われる。	
		製造業(電気機械器具)	少しずつ良くなっていくと思われるが、原油価格の高騰が懸念される。	
		非製造業(不動産業)	分譲マンション事業が好調であり、仲介取引にも動きが出てきている。	
雇用関連	人材派遣業	短期的な仕事が減って長期的な仕事が出てきている。		
変わらない	家計関連	スーパー	全体の販売量には変化がないと思われる。自分のための買物が増加するため、カットされる商品と増加する商品に分かれる。野菜などは地場産が上昇傾向にある。	
		コンビニエンスストア	景気が回復する要素が見当たらない。	
		小売業(酒類)	首都圏への転勤者が目立っており、地元企業の労働力人口が減少することが懸念される。	
		小売業(靴製品)	景気が良くなった話も悪くなった話も聞かれない。	
		居酒屋	3か月という短い期間では景気状況は変わらないと思われる。	
		食堂	食堂経営者としては、食生活の変化(弁当の利用等)による客の減少やマイカーの普及による郊外レストランへの客の流出などが懸念される。	
		観光型ホテル	まだ景気の回復が地方まで波及していないように思われる。特にサービス業は変動の影響がずれて現れるため、本格的に回復基調になるには1年~2年かかると思われる。	
		観光型ホテル	小売業などは「季節外れの台風」など天候によって左右されると言われているが、旅館・ホテル業も例外ではない。梅雨の季節など、いかに予約のキャンセルがないようにするかがキーポイントになると思われる。	
		観光型ホテル	予約状況を鑑みて、消費の拡大が見込まれない。	
		タクシー運転手	景気が良くなるという話が最近聞かれない。また、今後代行業の仕事も厳しくなると思われるが、売上げの増加はそれほど期待できない。	
		タクシー運転手	3か月先もこの状況が続くと思われる。	
		ドライブイン	延べ客数に変化はないと思われる。	
		理・美容店	仕事が多少出てきたように感じられるが、短期的な仕事ばかりである。	
		理・美容店	ボーナス期で近所のスーパー等で若干忙しさは見られるが、一時的なものであると思われる。	
		住宅販売会社	現在の受注増にはローン減税等の影響があると思われる。	
		企業関連	水産業関係者	漁業者としては海流の変化、特に暖流の接近等で大幅に漁獲が変わることを期待したいが、本年は寒流が強いと思われるため、あまり漁獲に期待が持てない。
			製造業(一般機械器具)	短期的には好不調要因が見当たらない。
			製造業(電気機械器具)	仕事は繁閑を繰り返して安定せず、現状維持に留まるものと思われる。
			製造業(電気機械器具)	業績に大きな変化はないと思われる。
	製造業(電気機械器具)		自動車関連やマンション等良い情報はあるものの、材料の値上がり、価格競争等マイナス面も大きく、収益面での上昇は厳しいものがあると思われる。	
	非製造業(建設業)		デフレの状況から抜け出さない限り、先行きの景気の回復は見込まれない。	
	非製造業(金融業)		季節要因による一時的な売上げ、受注の変動はあるにせよ、継続的な要因は見当たらず、現状のまま推移するものと見込まれる。	
	非製造業(情報処理サービス)		年度末時期以外は、毎年ほとんど仕事量が変わらない。	
	雇用関連	学校就業関係者	求人・求職数は増減はあるものの、平均すれば変わらないと思われる。	
		雇用相談員	仕事量は増えても請負単価が安いので、経営的に改善されるまでには時間がかかると思われる。	
		求人広告	個人消費の低迷が続くと思われる。	
		公共職業安定所	派遣や請負の求人の割合が多くなってきている。例年新規求人数が減少する時期ではあるが、企業側は経済情勢も踏まえ厳しい見方を崩していない。	
やや悪くなっている	家計関連	スーパー	毎年数パーセントづつであるが一品単価・買上点数が減少しており、今後もこの傾向が続くと思われる。	
		衣料品専門店	ボーナスで多少売上げが増加しても、一時的なものであると思われる。	

回答区分	分野	業種・職種	理由
やや悪くなっている	家計関連	旅行代理店	夏期賞与に関しても良い話が聞かれず、このような状態で旅行する人がどれだけののか疑問である。
		ゲームセンター	店舗での売上げも横ばい傾向にあり、将来的な状況を考えると今後下降していく可能性を否定できない。
		クリーニング店	当社の売上状況及び地元全体の状況を見ると、良くなると思われない。
	企業関連	林業関係者	材価の低迷が続くと思われる。
		製造業（食品）	当社の商品は、夏期は比較的需要が落ちる時期である。
悪くなっている	家計関連	ガソリンスタンド	原油の値上げによる製品価格への転嫁が充分でない。
	企業関連	製造業（電気機械器具）	大型設備投資関連の受注の減少が止まらないと思われる。

(2) 県央地域

(- : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。)

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	観光型ホテル	夏の営業で予約が入っており、期待が持てる。
	企業関連	非製造業（建設業）	ゼネコン、ハウスメーカー等が挙ってつくば近辺に営業所を新設するなど、つくばエクスプレス沿線の動きが活発化している。建設投資(分譲マンション、テナント)が活発になっている証拠であると思われる。
やや良くなっている	家計関連	専門スーパー	昨年は記録的な冷夏であり消費、レジャーともに夏場は大幅に景気が下降したが、今年は気温も平年並みで、アテネオリンピックのような気分的に活気が出てくる要因が多々あるため、徐々に景気は上り調子になってくると思われる。
		農産物直売所	客数が伸びているため少しは改善してきたように思われる。
		ドライブイン	9月～11月頃の予約の問合せが増加している。
		観光名所	体験教室の予約が増加している。また、周辺で2店ほど新規の店舗が開店する予定であり、賑やかになると思われる。
		パチンコ店	来店する客の様子に変化は感じられないが、業界の内規変更に伴って商品(台)の価値が少し上昇すると思われる。
	企業関連	レジャー施設	一部利用料金の改定及び景気回復感から、利用頻度が多くなると思われる。
		製造業（金属製品）	新製品の量産化が決定した。
		製造業（一般機械器具）	まだまだ設備が100%稼働する状態ではないが、全体的に忙しくなってきた。
		製造業（一般機械器具）	大物の商品（製造現場用のラインに組込むものであり、金額も設備投資の一環として予算化することが必要な商品）の見積もり依頼が増加している。このような傾向はここ数年経験がない。
		非製造業（輸送業）	秋冬物のカジュアル衣料の出荷が増加すると思われる。また、青果物の資材の動きが良くなると思われる。
		非製造業（金融業）	ボーナス時期を迎え、勤労者等の消費が増加すると予想される。
		非製造業（不動産業）	中古住宅、中古マンションの市場における30代の購買意欲が強くなってきている。
		非製造業（広告代理業）	すでに年末商戦の販売促進立案がスタートしている。また、昨年と違い、広告投入時期が早く制作費も若干アップしている。ただし業界によっては「仕入れが安ければよい」との判断が多いところもあり、すべてにあてはまるわけではない。
		非製造業（コンサルタント業）	選挙あるいはオリンピック等の影響を受け、消費意欲が高まることが予想される。
雇用関連	人材派遣業	企業からの求人が増加すると思われる。	
	雇用相談員	製造業や物流関係からの求人が増加すると思われる。製造業、物流、情報処理の企業担当者との面談では従前の受注状況とは異なるマインドを持っていると感じられる。	
変わらない	家計関連	商店街代表者	大きな変化はないと思われる。あるとすれば7月の参院選で政権交代など政局に大きな変化があった場合くらいであると思われる。
		商店街代表者	大規模小売店舗立地法を改正しない限り小売業及び商店街はますます厳しくなり、中心市街地の崩壊にもつながっていくと思われる。
		百貨店、総合スーパー	個人消費、法人需要ともにプラスとなる要因が見当たらない。企業収益の回復は業種や規模によりバラツキがあり、またリストラ等経費削減による収益向上であるため、個人所得環境はあまり改善されていないと思われる。
		百貨店、総合スーパー	必要な物だけ、あるいは特別目を引く物だけを購入する傾向は、今後さらに強まると思われる。
		スーパー	自店に関して店舗の改装等特段の目新しい変化がない。
		スーパー	良くなるための話題がない。
		スーパー	雇用が回復していないため、大きく良くなることはないと思われる。
		家電販売店	オリンピック需要に期待しているが、一時的な動きに留まると思われる。
		スーパー	過去6か月間の売上高状況から判断すると、変わらないものと思われる。
		専門スーパー	石油関係の値上げが進んでおり、客に他の物もすぐ値上がりするだろうという価格に対する警戒心があるようである。
		レストラン	中央の大手と違い、周りの会社でボーナス等の良い話が聞かれず、良くなる見通しが何もない。
		レストラン	ボーナスの時期になるが、前年を下回るという話がよく聞かれる。
		都市型ホテル	現在と同程度の企業利用が見込まれる。
		都市型ホテル	長期間の低迷が短期間で回復するのは難しいのではないかとと思われる。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	家計関連	旅行代理店	大きな変化はないと思われる。
		タクシー運転手	あらゆる機関が郊外に進出・移転することにより、交通手段としてタクシーでは高くなるため、利用者の減少に歯止めがかからないと思われる。
		タクシー運転手	客から景気が良くなるという話が聞かれない。
		ゴルフ場	乗用カーが配備されていないため、例年夏場は暑さのため客数が減少するが、今年についてはトーナメントの開催効果が表れ始めており、相殺されると思われる。
		理・美容店	新しいデパートがオープンするまでは人通りに変化はないと思われる。
		理・美容店	閉店する店がさらに出てくると思われる。
	企業関連	住宅販売会社	デフレ脱却の兆しが見られない。
		企業関連 非製造業（情報処理サービス）	ガソリン等の値上がりという不安材料もあり、夏場にはあまり期待が持てない。
	雇用関連	求人広告	現状維持が精一杯であると思われる。
		公共職業安定所	有効求人倍率が14か月連続で前年同月を上回っており、雇用情勢に明るさが見られるが、今後閉鎖する事業所の情報がある。
学校就業担当者		景気が良くなる材料が見つからない。	
やや悪くなっている	家計関連	自動車販売店	原油価格の高騰によりガソリンが値上がりしたが、他の石油製品も値上がりした場合、消費の伸びが悪くなると思われる。
		タクシー運転手	予約や利用の電話が減少すると思われる。駅では1時間～2時間待ちは当たり前前の状況である。また、飲食店も活気がない。
	企業関連	製造業（出版・印刷業）	年度の切替時期を過ぎ、動きは鈍と思われる。
		製造業（土石製品）	公共工事の減少により、競争が激化し受注単価が低下すると思われる。
悪くなっている	企業関連	製造業（食品）	原料高の製品安の状況が続くと思われる。さらに流通運搬費の上昇も見込まれるため、より一層の社業の引締めが必要である。

(3) 鹿行地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由	
良くなっている	家計関連	スーパー	客の消費意欲が高くなっているように思われる。高額商品の売行きも良い。	
やや良くなっている	家計関連	スーパー	地元企業が好況との情報が聞かれる。	
		スナック	グループ客が増加すると思われる。	
		タクシー運転手	企業関係者の利用が増加してきているため、個人消費が拡大すると思われる。	
		割烹料理店	企業関係者の出入が少し多くなってきており、客単価も少し上向いてきたように思われる。	
		理・美容店	季節的なこともあると思うが、暑くなると客の来店周期が短くなると思われる。	
	企業関連	農業関係者	秋口から需要期を迎える作物があり、期待が持てる。	
		水産業関係者	地元の港へ水揚げされるカタクチイワシの養殖用飼料の出荷量が増加しており、価格も少しずつ上昇してきている。	
		製造業（食品）	ボーナス支給時に入り多少の動きがあると思われる。また、中元商品の動向にも期待できる。	
		非製造業（輸送業）	秋口に入り次第に消費も伸び、貨物に関して生産～流通～在庫の面でもある程度活発化することが見込まれる。	
	雇用関連	民間職業紹介業	現状から判断すると求人依頼はさらに増加すると予想される。	
求人開拓員		大手企業のなかには下請け等の取引業者に対し十数年間下げ続けてきた取引価格の改定に応じる様子が見られるところもある。ただし、資材費等の上昇を心配する声も聞かれる。		
変わらない	家計関連	小売業（金物店）	現在の低迷が今後も続くと思われる。	
		商店街代表者	市場価格が大きく左右する傾向があるため、現状を踏まえるとこのままで推移すると思われる。	
		商店街代表者	3か月では回復は見込めない。	
		農産物直売所	昨年と同程度の売上金額を維持するので精一杯である。	
		家電販売店	メーカーのセールス担当者もどんどん減らされており、商売がますます厳しくなっている。	
		自動車販売店	まだまだ買い控え状態にあると思われる。	
		小売業（薬品店）	昨年の冷夏で、消費者も夏物商品の購入に慎重になると思われる。	
		観光型ホテル	3か月後の予約状況も芳しくない。	
		観光型ホテル	利用状況や予約状況から判断すると、この先も変化がないと思われる。	
		小売業（菓子販売店）	良くなる要素が見つからない。	
		クリーニング店	得意先から景気が良くなるという話が聞かれない。	
		室内装飾業	住宅の建築（新築またはリフォーム）が見込まれない。	
		住宅販売会社	金利の上昇や減税期間を考えると、落ち着くように思われる。	
		住宅販売会社	特に良くなる要素が見当たらない。	
		ドライブイン	昨年は冷夏で米の販売に影響があったが、今年は農作物に影響はないと思われる。	
		企業関連	製造業（窯業・土石製品）	大手企業の設備投資は伸びていると思われるが、中小企業の設備投資は長ブラの引上げ等による金利負担増等から控えるところが多いようである。また、デフレの回復が依然見込めないことから、ゼネコン関連や公共事業の伸びは期待できないと思われる。

回答区分	分野	業種・職種	理由
変わらない	企業関連	製造業（食品）	今までどん底の景気であったため、大きく回復するには時間がかかると思われる。
		製造業（電気機械器具）	景気回復の材料が見当たらない。強いて言えば今年の夏は暑くなるということぐらいであると思われる。
		製造業（飼料製造）	世界的な原材料インフレと製品デフレの狭み撃ちの状況は、しばらくは変わらないと思われる。
		非製造業（住宅設備施工業）	見積りが少ないため見通しはあまり良くない。
		非製造業（金融業）	雇用・リストラに対する不安があり、個人消費の拡大が見込まれない。
		非製造業（不動産業）	不動産は現在オファーがない状況では見通しが立たない仕事であるが、客の様子から判断すると見通しが良いとは言えず、景気は変わらないと思われる。
	雇用関連	人材派遣業	製造業を中心に総じて変化を感じ取れない。
やや悪くなっている	家計関連	専門スーパー	ボーナスで毎月の埋合せをしていた家庭の消費はますます冷込むと考えられる。
		タクシー運転手	あやめ祭りがある6月に比べ、利用客が減少すると思われる。
		洋食食堂	同業の大型店が開業する予定である。
		パチンコ店	地元のパチンコ業界は、人口に対して店舗数（台数）が異常に多く、客の取り合いとなっている。極端に人口が増加する要素でもない限り、良くなることはないと考えられる。
		クリーニング店	地元若者を受け入れる会社が少ないため、都会へ行った若者が戻ってこない。中高年者の仕事も減少するばかりである。
	企業関連	製造業（化学工業）	原油価格の高騰により、石油を主としている化学工業は少なからず打撃を受けると思われる。
		製造業（化学工業）	中東の影響で更なる原油価格高騰、コストアップが見込まれるが、販売価格への転嫁はすぐには難しいと思われる。
		非製造業（保険業）	油の価格が上昇している。また、公共工事が出ていない。
	雇用関連	公共職業安定所	業績は回復したが、原油高、原材料高、価格低下などを理由に先行きを楽観視していない企業が多く見られる。
	悪くなっている	家計関連	ゴルフ場
日本料理店			大手企業の業績低迷の影響で、接待等が減少すると思われる、建設、不動産も仕事がないと思われる。

（４） 県南地域

（-：回答が存在しない。：主だった回答等が存在しない。）

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	家計関連	家電販売店	オリンピックや地上波デジタル放送開始に伴うA/V機器の需要がある。
	企業関連	製造業（一般機械器具）	新工場の設立や中間期の決算見通し等により、先行きの見通しは明るい。また、久しぶりのボーナス支給増に伴い、消費の拡大が見込まれる。
	雇用関連	求人広告	年末に向けて求人が増加すると思われる。
やや良くなっている	家計関連	スーパー	気候の影響が大きいと思われるが、夏らしい日が続けば昨年より良くなると見込まれる。
		スーパー	ボーナスの減額も底を脱した感がある。また、今夏は冷夏となった昨年とは違いある程度の暑さになると見込まれるので、売上げの増加が期待できる。
		小売業（各種食料品）	客数、客単価、買上げ点数が増加すると見込まれる。
		洋食食堂	相変わらず厳しい状況であるが、ランチタイムに新しい客の顔が目立つようになってきている。
		ゴルフ場	株価、為替、政治状況が安定しており、不安要因が少ないと思われる。ただし、ガソリン等燃料が値上がり傾向にあるので若干の不安要因はある。
		理・美容店	短期目標を立てて、しっかりした行動力でクリアするような事業体制を意識した経営者が見受けられてきている。
		建築設計事務所	設備投資が進んでいるようである。
	企業関連	非製造業（建設業）	土地に動きが出てきていると感じられる。また、新築工事の依頼も1～2件来ている。
		非製造業（輸送業）	生産数量が抑え気味である分、種類が増加しているため、やや在庫的にも増加すると思われる。出荷のペースが早くなれば、ある程度の上昇が見込まれる。
雇用関連	公共職業安定所	新規学卒者対象の求人受理説明会の参加事業所が増加している。	
変わらない	家計関連	商店街代表者	パンの販売をしているが、パンは夏期に弱い商品である。
		スーパー	人口はあまり変化していないのに、店舗数だけが増えている。
		コンビニエンスストア	無駄な商品は購入しない傾向が続くと思われる。所得が増加しなければ消費意欲は変わらないと思われる。
		コンビニエンスストア	まだまだ家庭の財布のヒモは固く、自分の欲しい物だけを求めているようである。
		自動車販売店	客との話では、ボーナスが出て車を購入する費用にまわらないと言われることが多い。
		農産物直売所	4月以後花（特に切花）の売上げの減少が著しい。野菜や惣菜の売上げも微増であることから、大幅な売上増は期待できない。
		専門スーパー	現在の景気が定着したように思われる。
		和食食堂	現在の景気は一年以上前から続いているものであり、3か月くらいではさほど良くなると思われない。

回答区分	分野	業種・職種	理由	
変わらない	家計関連	都市型ホテル	宿泊は横這い状態が続くと思われる。婚礼や宴会に関しても人数はこれ以上減少しないと思われる。	
		旅行代理店	極端に増減する要因が見当たらない。	
		タクシー運転手	現状が底の状態であると思われる。	
		タクシー運転手	現在の売上げより減少することは考えられない。	
		タクシー運転手	大企業の決算は良い数字が出ているようだが、労働者のふところは豊かになっていないと思われる。飲み歩く人も少ない。	
		タクシー運転手	企業の経費節減が定着しており、早急な需要増は望めない。	
		タクシー運転手	良くなる要素（代行業者の二種免許義務付け）がないわけではないが、あまり期待はできない。	
		ゴルフ場	やや良くなっている印象はあるものの、前受予約数など数値では確認することができない。	
		パチンコ店	地域に何か新しい建物ができる様子もなく、現状のまま推移すると思われる。	
		ゲームセンター	現在の厳しい経済状況は今後も続くと思われるが、これ以上の消費の落込みはないと思われる。税込表示による割高感により消費が落ち込んでいた可能性がある。	
		レジャー施設	原油価格の値上がりにより、行楽に出るのを控えている可能性がある。	
		理・美容店	短期目標を立てて、しっかりした行動力でクリアするような事業体制を意識した経営者が見受けられてきている。	
		企業関連	農業関係者	農業地帯であるため景気に影響を及ぼすようなことは期待できない。
			製造業（食品）	急激な売上げの減少の原因がわからないため、見通しが立てられない。
製造業（食品）	業績の良い企業は一部の大企業だけで、零細企業では低迷が続くと思われる。			
製造業（食品）	長期天候予想が平年並みの見通しであり、国内の経済もこのまま低調に推移すると思われる。			
非製造業（建設業）	毎年7月～9月は受注が減少するが、今年も例年どおりの動きになると思われる。			
非製造業（建設業）	注文が少ない。また、すぐに値引の話になり、利益が減少している。			
非製造業（不動産業）	大きな変化を伴うような要因が見当たらない。ただ、一部つくばエクスプレス関連の地域ではやや明るさが見られる。			
非製造業（金融業）	大企業における業績向上はリストラ効果が主体であるため、消費が拡大していない。			
雇用関連	雇用相談員	地方では現在の状況がしばらく続くと思われる。短期間に状況が好転する要因もなく、また悪化する要因も見当たらない。		
	学校就業関係者	消費を我慢することが多く、百貨店などに買物へ行っても、品定めはするが購入にまで至らないケースがよく見られる。		
やや悪くなっている	家計関連	洋食食堂	例年秋口までは伸び悩む。	
		寿司店	月ごとに売上げが減少しており、この先もこの状況が続くと思われる。	
	企業関連	製造業（食品）	9月は中元の後であり、前年比では変わらないものの6月と比べれば購買欲はないと思われる。	
		製造業（一般印刷業）	今年も夏バテが3か月くらい続くと思われる。	
		製造業（コンクリート製造業）	大企業はともかく、有利子負債比率が高い企業にとっては金利の動向が懸念される。	
製造業（金属製品）	主力業務が海外生産に押され気味であり、回復が見込めない。			
悪くなっている	企業関連	製造業（食品）	年末に向けて個人消費はさらに落ち込むと見込まれる。	

(5) 県西地域

( - : 回答が存在しない。 : 主だった回答等が存在しない。 )

回答区分	分野	業種・職種	理由
良くなっている	企業関連	非製造業（不動産業）	客は不動産の底値感を感じており、買い時だと思っている。
	雇用関連	学校就業関係者	量産工場での部品生産が3か月後、6か月後と増産予定の会社がある。
やや良くなっている	家計関連	商店街代表者	年金改革が検討され始め、いくらかでも不安が薄らいでくると思われる。
		家電販売店	オリンピックによるデジタル家電の需要増が見込まれる。
		都市型ホテル	株価や輸出関連が好転してきている。
		旅行代理店	今の様子を見ていると、秋の社員旅行等に期待が持てる。このところ旅行を取りやめていた企業からも問合せがある。
		ゴルフ場	キャディのつかない割安なセルフデーの予約が早々に埋まっているほか、オープンコンペの人气が高い。
		建築設計事務所	企業からの改修計画及び見積りが具体的にまとまってきている。
	企業関連	農業関係者	リストラも一段落し、各方面で明るさが見えてくると思われる。
		製造業（食品）	今年の夏は冷夏だった昨年と違い、例年並の気温になることが予想されているため、天候に左右される行楽地向け商品の売上増加が見込まれる。
		製造業（印刷業）	上場企業の好景気が少しは地方にも波及してくると思われる。また、8月にはオリンピックがあるため、テレビの買い換え等により電気屋の売上げが増加すると思われる。夏の季節商品（衣料、電気等）にも期待が持てる。
		製造業（石材業）	前年同月比では減少すると思われるが、季節的サイクルによる上昇で6月よりは良くなると思われる。
製造業（石材業）	石材業界は例年7月～10月が最も仕事のある時期である。		
非製造業（広告業）	見積りが多少増加してきている。		

回答区分	分野	業種・職種	理由	
変わらない	家計関連	スーパー	消費税総額表示以降の買い控えにより客単価は微減しているが、あと1品購入していただくという企業努力をしても状況が良くなることは期待できない。	
		スーパー	消費者の財布の中身が増えなければスーパーの景気は良くなる。一部の勝ち組企業の社員はボーナスを多くもらっているが、中小企業の社員にこのボーナスが回らなければ消費回復は厳しいと思われる。	
		衣料品専門店	顧客の心理が急に変わるとは考えにくく、物に対しての関心も薄れてきているように思われる。	
		農産物直売所	客から「仕事がヒマ」、「給料が下がった」、「クビになりそう」といった話題が多く聞かれる。	
		専門スーパー	平年並みの夏がくればそれなりの消費は期待できる。	
		和食食堂	前年割れの状態が続くと思われる。	
		都市型ホテル	ここ数年の傾向から見ても、夏期の売上げに大幅な増加は見込まれない。	
		タクシー運転手	客から景気が上向くという話が聞かれない。	
		タクシー運転手	客からも景気が良くなる材料がないとの声が聞かれ、先行きに明るさが見えてこない。	
		タクシー運転手	夏のボーナス時期もあり現状を下回ることはないと思われるが、客から「テレビ等では景気が上向いていると言われているが実感がない」という声が良く聞かれる。	
		ドライブイン	相変わらず飲食部門の売上げが伸び悩んでおり、早期の回復は考えにくい。	
		ゴルフ場	低価格の料金設定をした週に来場者が集まる傾向は今後も続くと思われる。	
		ゲームセンター	オリンピック関係の特需で家電関係の勢いは増すと思われるが、他の業種に関しては特にプラス要因が見当たらないため、全体としては変わらないと思われる。	
		レジャー施設	3か月後は変わらないと思われるが、10年後または20年後、少子化により産業のバランスが崩れることが不安である。	
		理・美容店	先が読めない状態である。暑くなるにしたがい顧客の来店頻度が高くなれば望みもあるが、多くは望めそうにない。	
		クリーニング店	夏物は単価が安く売上げが減少すると思われる。	
		住宅販売会社	金利上昇の影響が出る可能性があり、悪くはならないが良くもならないのではないかとと思われる。	
		企業関連	製造業（食品）	原油価格の高騰及び世界的な農産物の不作（前年度）による原料高、大手スーパーの値下げ要求等による製品安の状況は当分の間続くと思われる。
			製造業（化学工業）	営業担当が顧客にヒアリングした結果を見ると、今の好調な状況はこの先2～3か月は続くと思われる。
			製造業（金属製品）	受注量が先行き不透明である。
製造業（一般機械工業）	見積り単価より値引するとの話があるため、景気が上向くことはあまり期待できない。			
製造業（電気機械器具）	どの企業からも先が見えないとの声が聞かれるため、楽観視はできない状況であると思われる。			
製造業（印刷業）	採算を無視した取引が改善される見込みがない。また、新たな需要が発生する見込みもない。			
非製造業（倉庫業）	飲料物については暑ければ良くなるし寒ければ伸び悩む。配電盤関係の状況は悪い。			
雇用関連	人材派遣業	求人がない状況が続くと思われる。		
	求人広告	県西方面への企業進出の情報が聞かれない。		
	公共職業安定所	学卒求人について検討している事業所は多いが、具体的な人数などが未定のところが多くまだ先が見えない状況である。		
	求人開拓員	どこも現状キープが精一杯のようである。		
やや悪くなっている	家計関連	ガソリンスタンド	原油価格の高騰による石油製品の値上がりだが、徐々に商品に転嫁されてくると思われる。転嫁が困難な場合にはマージンが圧迫され苦しくなってくると思われる。	
	企業関連	非製造業（建設業）	ガソリンや鉄関係が値上がりしているが、売値は上げられない部分もあり、やや悪くなると思われる。	
悪くなっている	家計関連	寿司店	売上げが徐々に低下しており、宴会の予約も少ない。	
	企業関連	農業関係者	農産物価格の下落が続くと思われる。	

### 3 その他の意見

#### (1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	基幹産業である製造工場が閉鎖を噂されていたが、一転して存続が決定し、従業員も増強されるとのことである。
	スーパー	品質が良く価格の高い商品（通常取扱商品）はあまり売れず、特売品（特に赤字採算で販売している商品）しか売れない。客はバーゲンハンターになりつつある。
	スーパー	女性客（特に若年者）の服装がオシャレになっており、スーパーにも良質・安心・清潔・値ごろ価格が求められているように思われる。また、企画物ではツアーに関する評価・関心が高いが、地元根付いた企業の企画として安心感があることが影響していると思われる。
	コンビニエンスストア	本当に欲しいものしか購入しないという心理から、客単価が下落している。裏を返せば、欲しい物になればお金を出せる余裕があるのだと考えられる。
	スーパー	少し良いもの、少し美味しいものを食べる傾向が見られる。また、健康食品、健康飲料、国産品、減農薬、低カロリーなど、健康や安心に対する支出が伸びているようである。
	ガソリンスタンド	原油の値上げに伴う諸製品の原材料の値上げを十分に商品に上乗せできていない。
	小売業（酒類）	焼酎（乙類）がブームとなっており、日本酒メーカーには厳しい状況であると感じられる。
	小売業（靴製品）	金融機関が融資に積極的になってきた。
	レストラン	商店会が解散になり、飲食店組合でも会員が600件から400件に減少してしまった。
	居酒屋	地元企業のリストラが依然として続いている。商売としても厳しい状況が続くと思われる。
	スナック	楽しい話が聞かれず、笑もない。
	食堂	平成17年から消費税の免税事業者の資格要件が売上げ3000万円以上から1000万円以上に引下げられるが、小さな店では値上げもできず赤字でも税金を納めなければならないため、個人商売は本当に困っている。
	観光型ホテル	まだ地方に中央の景気の良さが反映されていないが、マイナスになるというような不安感は収まりつつあると感じられる。
	観光型ホテル	政府の発表では「国内景気は着実な回復を続けている」とされているが、地方・中小企業には景気回復の実感はない。消費税の総額表示で値上がり感が否めず、原材料・原油価格の高騰もあり、まだまだ苦戦することになると思われる。
	旅行代理店	旅行業は、先行きの不安により大きな打撃を受ける業種であり、回復するのも最も遅い業種であると思われる。地元では空き店舗が相変わらず多く見られる。
	タクシー運転手	駅前にホテルがオープンしたが、最近は泊りがけの出張をする人が少ないようである。
	タクシー運転手	企業関係者の利用が増加してきている。
	タクシー運転手	夜の飲食店等の利用が少なく、町に人通りも少ない。21時以降になると駅前には活気がなくなってしまう。
	タクシー運転手	最近は夜の客が減少している。タクシーを利用する客自体が減少している。
	ゴルフ場	最近新装開店したところがいくつかあり、地域経済にも少し明るさが見えてきたように感じられる。
	ゲームセンター	年金問題や原油高により、将来への不安が高まり消費行動が控えられると思われる。
	レジャー施設	若干だが客単価の上昇が見受けられる。
	レジャー施設	身近な人から住宅を購入するという話が最近よく聞かれる。
	理・美容店	今年は企業も夏祭りをやれるよう頑張っているようである。
	理・美容店	一時空地が増加し駐車場ばかり多くなっていったが、最近新築する所やマンションができており、明るい材料と思われる。
	クリーニング店	ペットフードやペットサロンなど、ペットに関する業界がとても良いように感じられる。
住宅販売会社	こだわったものにはお金を出す人が増加しているように思われる。	
企業関連	水産業関係者	最近テレビや新聞等で景気の回復が囁かれているが、確かにトラックや乗用車等の往来が頻繁であり、流通は盛んであるように思われる。しかしながら、水産業は冷水海のため不漁が続き不景気である。サバ、イワシ、シラス等の大量水揚げを期待する。
	製造業（食品）	4月の消費税総額表示に伴い価格改定があったが、すべて価格に盛込むことはできなかった。量販店でも98.88円セール等の表示をすることにより売上減に対応している様子が見られる。
	製造業（一般機械器具）	6月から金融機関の利息が低下した。
	製造業（電気機械器具）	業績が悪い状態にも慣れつつあり、景気の話もあまり出ない。
	製造業（電気機械器具）	製品含有物質規制（EU指令）に伴い大手企業ごとに説明会が開催されているが、その席上でISO14000認証取得の打診がある。
	製造業（輸送用機械器具）	鋼板、銅、アルミニウム等の市況品価格の高騰に加え、ガソリンの大幅値上げにより輸送費等の固定費が圧迫されている。
	製造業（電気機械器具）	昇降機関連の仕事が中心であるが、今年上半期まではエスカレータの受注（生産）が好調である。また、オーダーのレベータも比較的好調である。
	非製造業（建設業）	地域経済の目安である建設業の動きが悪くなると、他の業界にも波及していくように思われる。
雇用関連	学校就業関係者	賞与も支給され、雰囲気的に明るさを感じられる。また、各企業の合理化、リストラ等の声
	雇用相談員	求人をする企業は派遣や請負を望んでいる場合が多く、常用雇用の求人は減少してきている。企業での仕事量が年間を通して一定ではなく突発的な受注が多く、常用雇用が難しいのだと思われる。表面的には求人倍率は上昇しているが、景気が本格的に好転しているとは思えない。
雇用関連	求人広告	忙しい会社と暇な会社の差が出てきている。得意技を持つ企業が生き残るのではないかと
	求人広告	個人商店の売上げが低迷している。

## (2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	商店街代表者	10月より県域デジタル放送が開始する。県内の経済発展につながることを期待している。
	商店街代表者	数字には表れないが、人の動きに少し明るさが見えてきているような気がする。しかしながら商店街は今後も大変な状況が続くものと思われる。
	百貨店、総合スーパー	高額商品の単価は低下していないが絶対的な数量が減少しているように思われる。一方で低価格商品は若干単価が低下しており、数量は増加傾向にある。総体的には単価は低下していると思われる。
	百貨店、総合スーパー	リフォームや新家電（薄型テレビ、DVDプレイヤー）など、「暮らし」が向上するものには投資がなされているように感じられる。
	スーパー	客単価・買上点数ともに伸びない。
	専門スーパー	何を購入するにしても、より安い物を少量で済ませられないかを常に意識している様子がうかがわれる。節約とはまた別で、現在及び先行きの景気（生活）に不安があるためだと思われる。
	家電販売店	地上波デジタル放送の試験放送でオリンピックを放映するとの情報がある。今後の宣伝効果に期待したい。
	自動車販売店	公共事業の受注が減少し大変だという声が聞かれる。
	スーパー	最近客が各店舗を買い回りする傾向が強くなってきている。特にチラシ商品に左右されているようである。
	専門スーパー	客の一回に購入する量が以前より確実に減少している。「今必要な物を使う量だけ購入する」という感じであり、安ければ買い置きをしておくという傾向はあまり見られない。
	都市型ホテル	段階的に減少しているボーナスがさらに減少し、またベースアップもないということで、家計は厳しくなる一方である。
	観光型ホテル	地元の体験型教室の人気が出てきている。
	タクシー運転手	客から景気はどうかとよく質問される。
	タクシー運転手	6月より代行業に対する法改正が施行され廃業した事業所もあるが、タクシーの利用は増加していない。白タク行為を行っている代行車も見受けられる。
	タクシー運転手	駅構内においては家族によるマイカー送迎の姿が多く見受けられる。
	観光名所	高くても良い商品の方がよく売れる傾向が最近特に強い。欲しい商品であれば注文してでも、時間がかかっても、高価であっても手に入れたいという客が多く見受けられる。
	ゴルフ場	プレー予約時に料金の値下げについて問い合わせる客が増加傾向にある。
	パチンコ店	若年層（10代後半～20代前半）の金遣いが荒くなった。また、同年層のクレジットカード所有率が上昇しており、個人的趣味に対する消費額が上昇している。
	レジャー施設	利用者はこれまで我慢していたレジャーの回数増加を願っているように感じられる。
	理・美容店	周りの店が閉店し、人通りの少ないさみしい商店街になった。
理・美容店	各店舗ともいろいろと営業の仕方を探りながら頑張っているが、中国と取引をしている会社のように景気が良くならない。	
住宅販売会社	金融機関が住宅ローンに対して積極的になってきているようである。	
建築設計事務所	県内景気は回復傾向との報道があるが、身の回りではそう感じられない。東京では上向いているとの話は耳にする。また、中国及び東京方面の需要増により鉄（鉄筋、鉄骨）の価格が値上がりしてきているとのことである。	
企業関連	製造業（食品）	ガソリン価格の上昇が目立つ。
	製造業（出版・印刷業）	社会全般にコンピューター化が進み、資料としての性格を持つ印刷物の内製化が最近特に顕著である。また、受注する物件についても、FD、MO、CD-R等での入稿がほとんどで、仕事の回転は良いが価格下落の一因になっている。
	製造業（出版・印刷業）	仕事を待っているだけでなくつくり出そうという動きが社内に見られるようになってきた。
	製造業（一般機械器具）	皆明るくなった気がする。同業者が元気である。
	製造業（一般機械器具）	商品によってはあるが、同業者との価格競争が激化している。また、海外へ工場を移転した客から、海外工場での設置を条件にした見積書作成の要望が増加しつつある。
	非製造業（建設業）	中国経済の影響により鉄（鉄筋、鉄骨）の価格が高騰して非常に困っている。倍以上の値がついている状況であり、隣国のパブルの影響の大きさを実感している。
	非製造業（輸送業）	近所に新築住宅が8軒建った。
	非製造業（金融業）	同業者の中でも勝ち組と負け組の差が鮮明になってきており、勝ち組の積極的な設備投資が目立っている。
	非製造業（不動産業）	東京で土地の購入が高値取引になってきているため、東京のマンションデベロッパーが地方（20万都市）への進出を検討しているようである。
	非製造業（広告代理業）	ここ2年間で広告業界の倒産が3件あった。適正なコストをかけて適正な経営をしている会社は業績も良いが、ダンピングで凌いでいる会社は常に瀬戸際の戦いを強いられている。
	非製造業（コンサルタント業）	景気が悪いから売上げが増加しないとの認識ではなく、原因は足元にあると認識するなど、経営の問題点を的確に理解し対応する事業者が増加している。
	非製造業（情報処理サービス）	明るい話題が増加してきた。今まで大手企業のための景気回復基調であったものが中小企業にも及んできていると感じられる。
雇用関連	雇用相談員	鉄鋼関連の加工及び製造業において受注は増加しているものの、材料費の高騰により利幅が減少しているようである。
	求人広告	新しい店がいくつかがオープンする予定である。特に飲食店が多い。
	学校就業担当者	最近東京に行く機会があったが、店は不景気なようであった。景気が上向いているとは感じられない。

## (3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	小売業(金物店)	地元の建築業、工事店の仕事量が年々減少傾向にある。また、建築関係資材の売上げの低下が気になる。
	商店街代表者	家計はそう悪くはないが、将来を見越して購入を控えている家庭が多いように思われる。
	商店街代表者	遊技場やゴルフ練習場にも最近人が多く見られるようになった。ゴルフコンペ等の参加者も増加しており、経済的に若干余裕が出てきたのではないかと考えられる。
	商店街代表者	今までは暗い感じだったが、最近は何となく明るくなってきたように感じられる。
	スーパー	近隣に競合店があるが、自店より価格が若干高い。鹿行地区の企業も良し悪しが分かれているとの話が聞かれるが、消費者にとっては少しでも価格が安い方が生活が楽になるのではと思われる。
	スーパー	健康食品ブームで健康志向の商品が売れている。特にカロリー減、プリン体減などに敏感である。
	スーパー	近隣のショッピングセンターの専門店が5月いっぱい撤退した。
	家電販売店	景気が上向いていると言われるが、リストラや失業保険のカット等の上になり立っている景気回復はつらいものがある。
	専門スーパー	バーゲンハンター(特價品買い)の数が増加し、客単価が激しく落込んできている。万券が減少しており、消費を抑え気味であると感じられる。
	書店	商店街活性化のために商店街二世が勉強会を始めてから二年目になる。若い人の考えや行動に期待している。
	スナック	企業関係者の表情や話題が明るくなったように感じられる。
	観光型ホテル	料金単価の安い日帰り入浴者数は若干増加している。
	小売業(菓子販売店)	消費税の総額表示が割高感を与えていると思われるが、個人の店では一部の大型店のように価格を据置くことができない。客が慣れるのにはもう少し時間がかかると思われる。
	タクシー運転手	国政が不安定で我々庶民も落ち着かない。当然消費も拡大しないと思われる。
	タクシー運転手	最近代行車の利用客が増加しているため、タクシーの利用客が減少している。
	タクシー運転手	場外車券売場の客が増加している。
	観光名所職員	弁当と飲み物を持参する客が多い。無料のものは喜ばれるがお金は出したがらない様子も見受けられる。また、客から以前は度々来ていたが最近では驚かす声が多いとの声が聞かれるが、ガソリンの急激な値上げ等も原因のひとつではないかと思われる。
	洋食食堂	今秋大型のショッピングセンターがオープンする予定であり、客の流れが変わる可能性がある。大きな視点で見れば地元の消費者にとって有益なことであると思われる。
	割烹料理店	観光客が地元の中心部を素通りしてしまうため、最近商店会が客足を留めることができるような催しを考えているようである。
	パチンコ店	飲食店等の閉店がよく見られるようになった。
	日本料理店	ハローワークに求人募集をしており、何人も面接に来るが、苦勞をしてまで仕事をしたくないという人が多く、職人(板前)になるために努力するような人材がいらない。
	クリーニング店	サービス業の一部等、業種によっては回復している業種も見られる。
	室内装飾業	外国からの(特に中国からの)労働者が多く見られるようになった。
住宅販売会社	客から後ろ向きな話が聞かれなくなった。	
ドライブイン	同じメロンでも、安いメロンよりも契約農家や特別栽培など高くても付加価値のついたメロンがよく売れている。	
企業関連	水産業関係者	漁船の建造に際して、鋼材の値上がり(10%~15%)が見られる。
	製造業(食品)	水産加工業全般が不漁により元気がない。
	製造業(化学工業)	石油の価格が大幅にアップしている。
	製造業(窯業・土石製品)	地元の大手企業で新設備が稼動する予定であり、近辺の景気にどう影響があるか注目している。
	製造業(食品)	業種によって景気の良し悪しにバラツキがある。
	製造業(電気機械器具)	職場の女性から最近では美容院の予約が取りづらくなったとの話を聞いた。髪を切る(パーマをかける)サイクルが短くなるのは景気が良かった証拠であるという。あまり実感はわからないが、徐々に景気回復の兆候が表れている可能性がある。
	製造業(飼料製造)	BSE対応により設備投資が非常に活発になっており、場合によっては工業者が確保できない事態となっている。
	非製造業(住宅設備施工業)	メーカーから株価が上昇しているため今後少しは良くなるのではという話が聞かれるが、地元は特に良い情報もなく、変わらないと思われる。
	非製造業(輸送業)	価格が高くても消費者が納得できる商品は売れているようである。安いだけでは仕事は来ないため、ある程度付加価値を考えて単価を設定した方が良いと思われる。
	非製造業(金融業)	年金問題やイラク情勢による石油関連価格の高騰等により、個人消費が伸びていない。また、余分な商品は購入せず安い商品だけを購入するバーゲンハンター的な買物志向が強いように思われる。
	非製造業(保険業)	仕事に就かない若年者が多く見られる。
雇用関連	民間職業紹介業	製造業の人材派遣解禁に伴い、今後はさらに派遣業界の動きが活発になり、企業としてもコスト・リスクの面からも就業形態に変容があるように思われる。
	公共職業安定所	新規学校卒業者対象の求人受理説明会を行ったが、前年並みの参加状況であった。
	学校就業関係者	ガソリンの価格が上昇している。また、スーパーで割引された弁当を購入する人が多く見られる。
	求人開拓員	昨年と比べチラシによるパートや期間契約等の求人募集に対する応募者数が減少しており、求人数に満たない状況である。

## (4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見	
家計関連	スーパー	会社周辺では万引きや車上荒らしなどの犯罪が多発している。リストラに耐え生き残った人達には底を脱したという安心感が出てきているが、そうでない人は本当に追い詰められている気がする。「勝ち組」「負け組」の二極分化が鮮明になってきた。	
	自動車販売店	自動車税の通知が来たので車を手放したいという客が増加した。税金が負担になってきている可能性がある。	
	農産物直売所	切花の売上げの低迷が気がかりである。	
	専門スーパー	先日当店はリニューアルオープンしたが、何か大きな要因がないと景気は回復しないように思われる。	
	ガソリンスタンド	職種によってかなり差が出てきており、特に薬品関係は良いという声が聞かれる。また、6月より運転代行業にも二種免許が必要となり、かなり人出が不足しているとの情報がある。	
	小売業(各種食料品)	多少価格が高くても、ダイエット関係の商品や健康飲料(茶)などがよく売れている。	
	洋食食堂	以前店舗だった場所が駐車場等に変わっている様子が目立つ。また、今後も大型店の郊外進出が見込まれ、中心市街地の商店は更に努力が必要であると思われる。	
	洋食食堂	リサイクルショップがあちこちで開店しているが、ブランド品を安く買い求めることができるため、今の時代にはびったりの商売であると思われる。また、当店ではギリギリの価格設定をしているつもりではあるが、客からサービス券の発行や、記念日には値引き等をしてほしいという意見が聞かれる。	
	寿司店	少人数ではあるが、製造業関係の客から仕事が最近忙しくなってきたとの話が聞かれる。	
	和食食堂	最近あまり良くない景気の中、競合店がどんどん増加している状況であり、独自のブランドや他店にないサービス等何かをしなければ悪くなる一方であると思われる。	
	都市型ホテル	最近、生保関連での需要が増え、集客も増加傾向にある。また、エリア内でつくばエクスプレスの動きも表れ、マンションの建設やショッピングセンターの利用客の動きも見られてきた。	
	タクシー運転手	地元の病院の前で営業しているが、タクシーは利用せず、バスやマイカーでの送迎が増加している。	
	タクシー運転手	駅周辺の飲食店(スナック等)に閉店しているところが目立つ。	
	タクシー運転手	駅構内で待機しているがタクシーを利用している人は少ない。一回営業して戻ってくると2~3時間待ちになる。	
	タクシー運転手	特に夜の飲食店等からの利用客が激減している。	
	タクシー運転手	6月より代行業者に二種免許が義務付けられたため売上増を期待しているが、ここ10日間を見る限りでは期待外れである。	
	ゴルフ場	燃料費(ガソリン、軽油等)が漸増しており、各種品物に波及するのが心配である。	
	ゴルフ場	客は以前より活発に動いているが、第一に料金が安いところというのは変わっていないように感じられる。	
	ゲームセンター	集客自体に大きな低下はないが、客単価が低下していることが心配である。	
	レジャー施設	学生(特に小学生以下)が団体で来園する際に、小遣いをほとんど持って来ないことが多くなったように思われる。	
	建築設計事務所	各事務所が忙しい様子だが、一方で従業員やパートを解雇しているようである。	
	企業関連	農業関係者	市町村合併を目前にして、各自治体とも駆け込み的に公共事業に着工しており、建設業者は良くなってきているのではないかとと思われる。
		製造業(食品)	イラク情勢と中国の急成長の影響で重油価格が高騰している。また、鉄くず等の中国への輸出増が、再資源化で製造されるネジ・鋼材の値上げを誘引している。
製造業(一般印刷業)		参院選と年末の首長選及び市議会議員選挙による活発化を期待している。	
製造業(コンクリート製造業)		セメント、鉄筋、重油など原材料の値上げ要請がある。	
製造業(一般機械器具)		製造の国内回帰が見られる。	
製造業(金属製品)		仕事の引上げや単価の安い新業者への転注もあり、金属産業は先行きに期待が持てない状態である。一方で、コンピューター関連の新ソフト産業は好調のようである。	
非製造業(建設業)		宴会の開催回数が増加しているが、タクシーや理容の利用回数はまだ期待が薄いと口にする経営者が多い。	
非製造業(建設業)		つくばエクスプレス開通に伴うマンションの売れ行きが良いようだが、地元は衰退の一途であると感じられる。	
非製造業(建設業)		1日に3~5回くらい悪徳商法の電話がありうんざりしている。他のところにも電話があるそうで、うまい話に乗せようとしているようである。	
雇用関連	非製造業(金融業)	低金利ローンの利用者が高金利ローンの利用へ移ってきているようである。	
	人材派遣業	顧客が最近「ますます先が不透明」と嘆いている。	
	求人広告	タバコを止めた人が増加したように思われる。	

## (5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家計関連	スーパー	ここ数か月は月末の給与日以降の特売での売上げや客数は比較的多かったが、最近はやや少なくなっている。
	スーパー	データ(商品の動き)を見ると、安い商品と価値のある高額商品がともに動いており、まさに二極化現象が起きている。
	衣料品専門店	顧客層(18歳~27歳)の購買意欲は以前と比較して明らかに落ちている。携帯電話等通信費の増大により支出バランスは変化しているとは思われるが、物に対する欲はかなり小さくなってきていると感じられる。
	農産物直売所	同業者が皆売行きが悪いと口にしてている。また、原油価格の高騰により燃料費が増加するなど差引きが多く、手取り収入が減少してきている。
	専門スーパー	原油価格がこれ以上高騰すると悪い影響が出そうであり、心配である。
	ガソリンスタンド	本・CD複合型の大型店舗がオープンした。さらなる同型店舗の建設も予定されており、今後個人店舗にとっては厳しくなると思われる。一方で、個人消費が刺激され、若者の購買意欲が高まる可能性もある。
	洋食食堂	発注企業から下請けへの注文が一巡し、次の注文がないとの話が聞かれる。忙しかったのはほんの一時であったように思われる。
	和食食堂	若者が必然的に客単価の低い市場へと動いている。
	都市型ホテル	広域合併での何らかの動きに期待している。
	旅行代理店	客から多少忙しくなってきた、良くなってきた気がする等の話が聞かれる。
	タクシー運転手	景気が回復しているとの報道があるが、身の回りの景気は回復しておらず、先行きも不透明であるのが、街のあまたの現状であると思われる。
	タクシー運転手	駅前に大規模な施設ができ、人の流れが少しずつ変わってきているようであるが、タクシー利用者はそれほど変わりがない。6月から運転代行(客車運転)にも二種免許が必要になるため、客足が少しでもタクシーに向くことを期待している。
	タクシー運転手	閉鎖する店があれば新しくできた店もあり、一時期のような閉店ばかりの状況とはだいぶ様子が変わってきており、いろいろな面で活気が出てきていると思われる。ただ、成功する店(企業)といまひとつの店との差が大きいに感じられる。
	ドライブイン	長期金利の上昇など景気回復と見られる報道が多くなってきたが、一部の大企業の業績が好調なだけで、一般庶民には景気回復の実感がないと思われる。
	ドライブイン	不景気と思わずに社員一同一円でも多く販売するよう心がけている。
	ゴルフ場	梅雨時であるため、現在はかなり天候に左右されている状況である。
	ゴルフ場	5月の連休対策で毎年頭を悩ませているが、今年は連休後半の雨と長い連休に阻まれ苦戦した。
	パチンコ店	客はイベントを狙って流動的に動いており、固定客の定着が厳しい状況にあることから、財布のヒモの固さが感じられる。
	レジャー施設	勝ち組と負け組のバランスが悪い。小さな店は大型店に勝てず、個人店はチェーン店に勝つことができない。
	理・美容店	本業以外にバイトをしている、あるいはバイトをしたいという声が多く聞かれる。来年予定されているつくばエクスプレスの開通により景気が良くなることを期待している。
	住宅販売会社	住宅取得に対し、客は依然慎重である。
	建築設計事務所	土地の購入を前提にした建築が可能かとの問合せが増加している。
	企業関連	製造業(食品)
製造業(印刷業)		不況が続く誰も節約するためか、飲食関係(特に街に古くからある食堂、レストラン、料亭、クラブ等)が厳しさを増している。
製造業(石材業)		法事を控え、墓を建てるのに安い材料を使用する人が多い。
製造業(石材業)		得意先及び仕入先の会社を退職する人が最近多く見受けられる。その一方で、外国人たちは「日本はお金を稼げる」と口にしてている。
製造業(金属製品)		土・日の夜等、飲食店などでは以前より客が入っているように見受けられる。
製造業(一般機械工業)		今までは仕事をしてから単価を決める会社が多かったが、見積りが多くなっている。
製造業(電気機械器具)		必要な物だけを購入していると思われるが、買物に出かけると以前より消費が進んでいるように感じられる。
製造業(印刷業)		運転資金及び設備資金を金融機関から借り入れているが、金利が上がろうと不安である。ペイオフにも不安を感じる。
非製造業(建設業)		業績が上がった、利益が増加したということで、景気が良くなっていると言われているが、リストラや規模の縮小等が原因となっている。勝ち組と負け組の分け目がはっきりとしてきたが、失業者も増加しており、全体的には景気が良くなったとは言えない気がする。
非製造業(不動産業)	金融機関が住宅ローンの獲得に積極的になってきている。	
非製造業(広告業)	全体の仕事量が減少しているため、受注価格の下落傾向が続いている。	
雇用関連	人材派遣業	電気関係、電話関係が忙しいようである。
	求人広告	どの企業も正社員の雇用は避けており、パート雇用を増加するところが多く見受けられる。これに伴い、共働きの家庭が増加すると思われる。
	公共職業安定所	製造業で拠点を海外(中国やアジア諸国)へシフトする動きが見られる。また、アウトソーシングの傾向が高まっている。
	学校就業関係者	見込み生産をする会社が増加している。また、自動機械用部品、モータ、エアシリンダー等の部品の増産が見られる。
	求人開拓員	新しいこと(設備投資や新商品の購入等)に挑戦するのではなく、今までの売上げを伸ばそう、もう少し我慢しようということが多いように思われる。